

花きの現状について

令和 6 年 3 月

農林水産省



花っていいよね。キャンペーン

1. はじめに

(1) 花きの定義

○ 「花きの振興に関する法律」の第二条において、「花き」とは、観賞の用に供される植物をいうと定義されている。具体的には、切り花類、鉢ものの類、花木類、球根類、花壇用苗ものの類、芝類、地被植物類をいう。

【花きの振興に関する法律】（平成26年法律第102号）（抜粋）

（定義）

第二条 この法律において「花き」とは、観賞の用に供される植物をいう。

2 （略）

花き

※食用に供されるものを除く

【切り花類】 切り花（キク、バラ、カーネーション等）、切り葉（ヤシの葉等）、切り枝（サクラ等）

【鉢ものの類】 シクラメン、ラン、観葉植物、盆栽等

【花木類】 ツツジ等庭木に使われる木本性植物で緑化木を含む（鉢ものとして生産されているものを除く）

【球根類】 チューリップ、ユリ等

【花壇用苗ものの類】 パンジー、ペチュニア等

【芝類】 造園用等養成されているもの

【地被植物類】 ササ、ツル類等地面や壁面の被覆に供するもの

「山野草」や「林木」について明確な規定はないが、観賞用に仕立てをして栽培されているものは花きとして取り扱う

【山野草】



野外に自生する草本、低木及び小低木の一部等

【林木】



スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、カラマツ等

1. はじめに

(2) 花きの特性

- 食生活の範囲の中で選択される野菜・果物と異なり、花きは冠婚葬祭、贈答用、装飾等、様々な使われ方をしている。
- 使われる用途・場面によって、種類・品種・色等が細かく異なる等、花きは極めて嗜好性が高い品目である。
- 消費者等のニーズ、品目の特徴に応じた生産から流通・販売までの一体的な対策を講じていくことが必要。

キク

産出額1位
539億円

装飾
ブライダル

仏花

葬儀

マム
(ピンク・緑) 小菊(黄等) 輪ギク(白)

洋ラン(鉢)

産出額2位
342億円

お祝い

コチョウラン(白、ピンク)

切り枝

産出額3位
224億円

いけばな・装飾

ユリ

産出額4位
182億円

装飾

葬儀

オリエンタルユリ
(ピンク、白等) 鉄砲ユリ(白)

観葉植物

産出額5位
178億円

インテリア

バラ

産出額6位
153億円

ブライダル・贈答

白・赤・黄・ピンク等

庭園樹苗木

産出額7位
135億円

まちづくり

トルコギキョウ

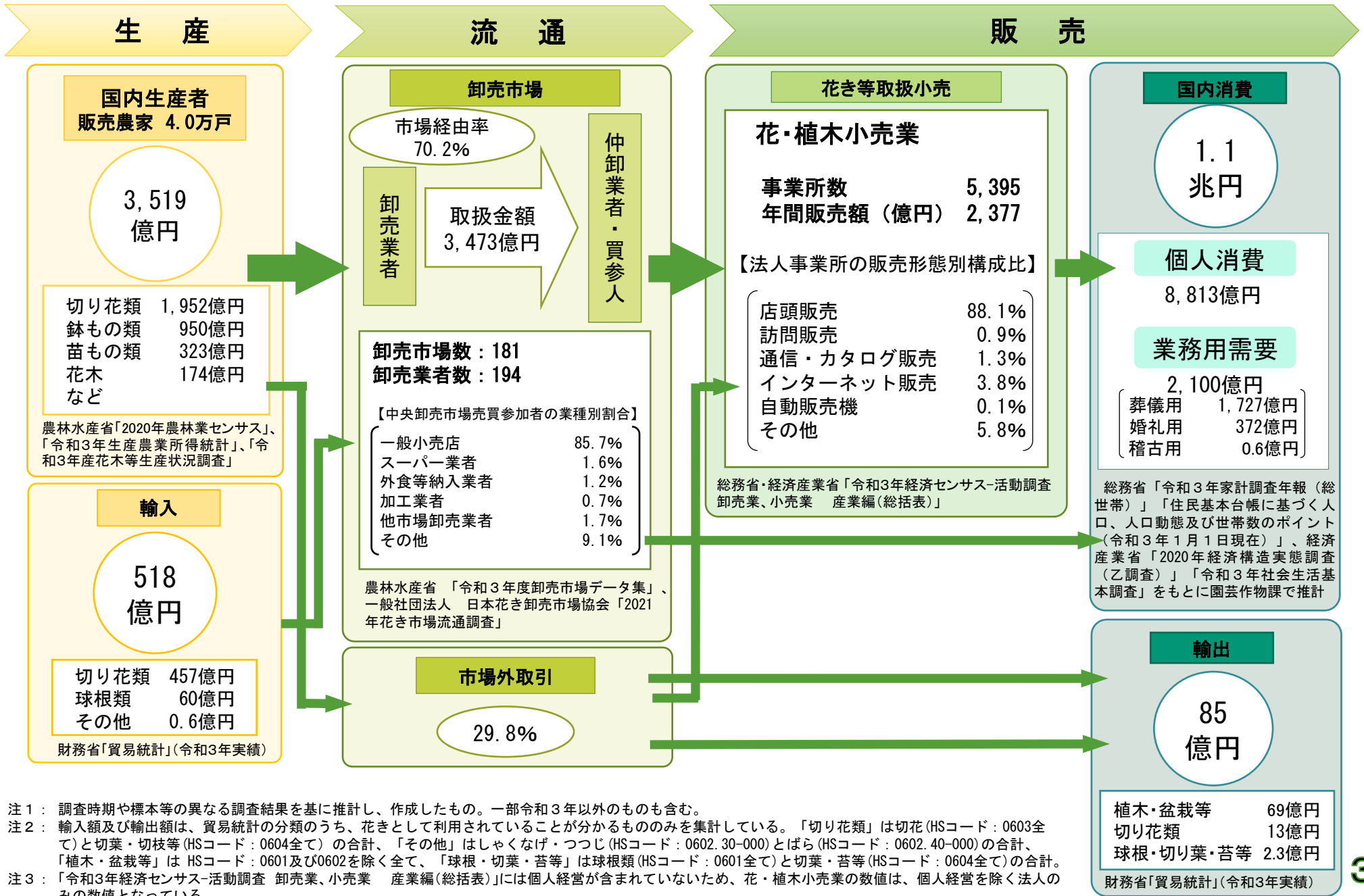
産出額8位
117億円

ブライダル・葬儀・装飾

白・ピンク・紫等

資料：農林水産省「令和3年生産農業所得統計」

<参考>花きの生産・流通・販売の主な流れ

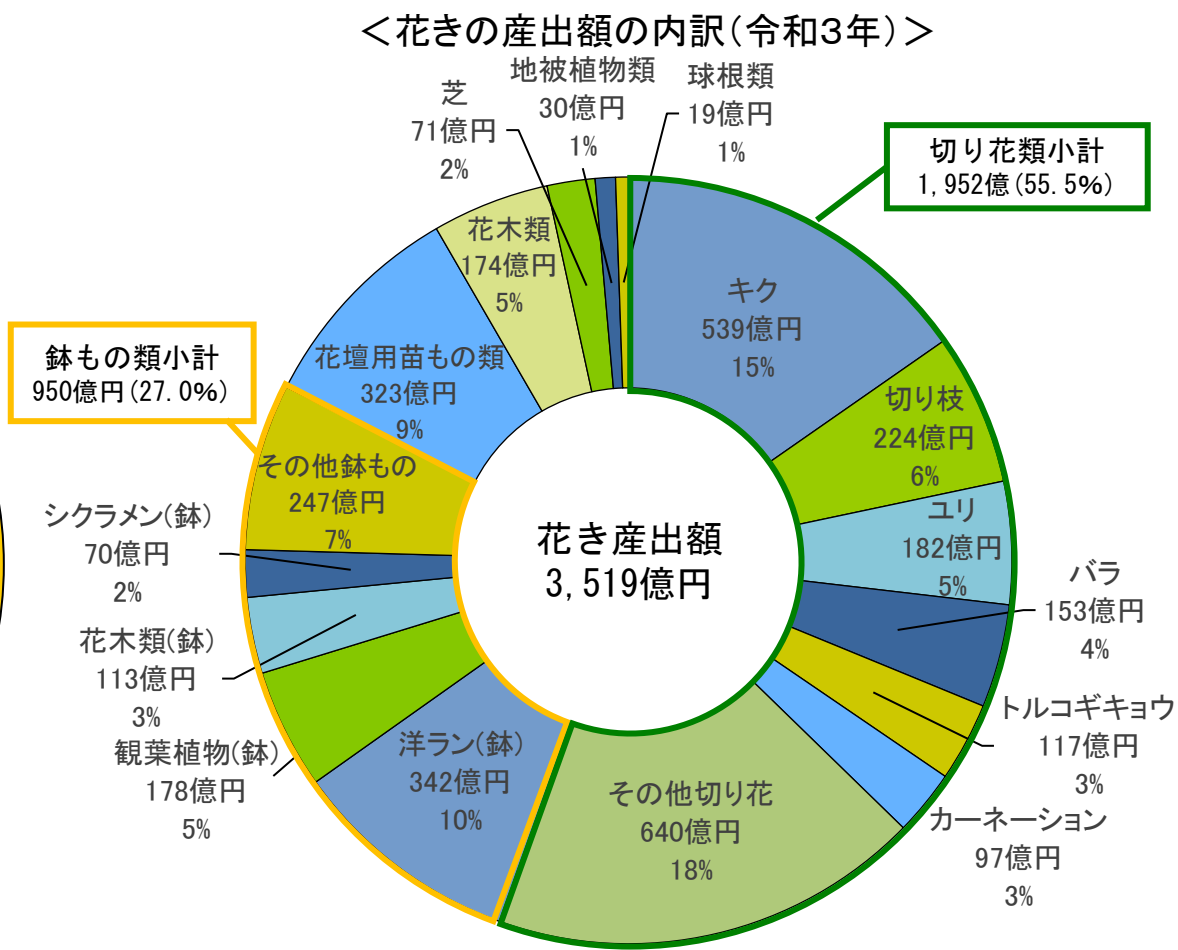
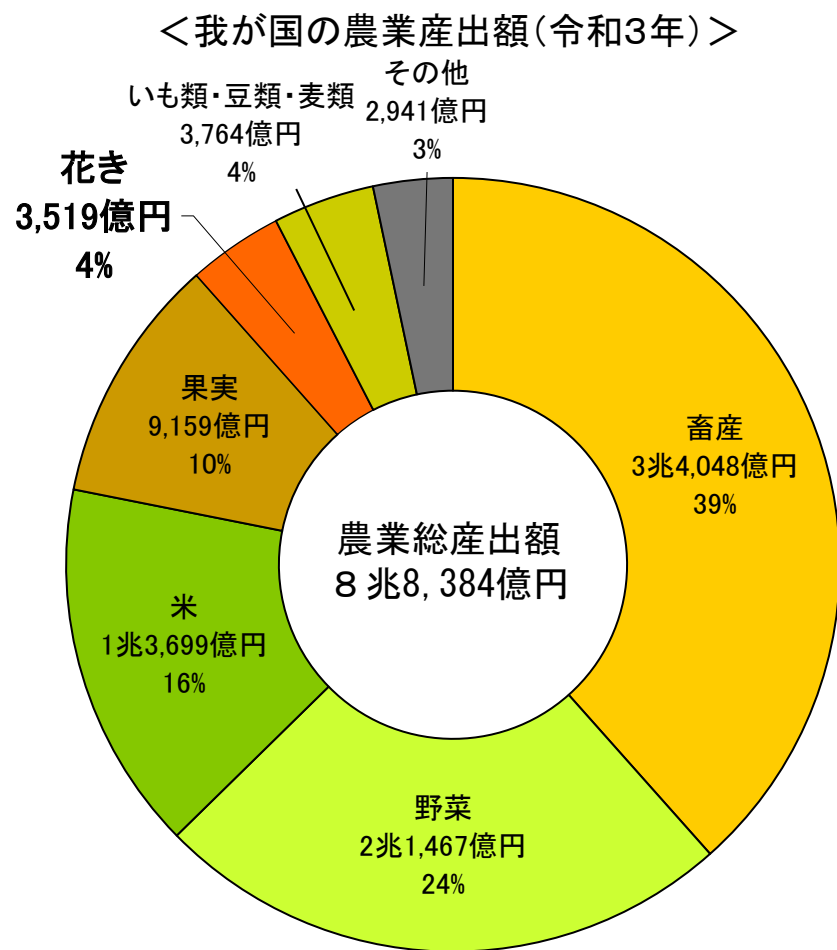


注1：調査時期や標本等の異なる調査結果を基に推計し、作成したもの。一部令和3年以外のものも含む。
 注2：輸入額及び輸出額は、貿易統計の分類のうち、花きとして利用されていることが分かるもののみを集計している。「切り花類」は切花(HSコード：0603全て)と切葉・切枝等(HSコード：0604全て)の合計、「その他」はしゃくなげ・つつじ(HSコード：0602.30-000)とばら(HSコード：0602.40-000)の合計、「植木・盆栽等」はHSコード：0601及び0602を除く全て、「球根・切葉・苔等」は球根類(HSコード：0601全て)と切葉・苔等(HSコード：0604全て)の合計。
 注3：「令和3年経済センサス-活動調査 卸売業、小売業 産業編(総括表)」には個人経営が含まれていないため、花・植木小売業の数値は、個人経営を除く法人のみの数値となっている。

2. 花きの生産

(1) 我が国の農業における花きの生産の位置づけ(生産額ベース)

- 令和3年の花きの産出額は3,519億円で、農業総産出額の4%を占めている。
- 花きにおける産出額の内訳は、切り花類が6割、次いで鉢ものの類が3割、花壇用苗ものの類が1割。



資料: 農林水産省「令和3年生産農業所得統計」、「令和3年産花木等生産状況調査」
 ・花きの産出額は、「令和3年生産農業所得統計」の産出額に、「令和3年産花木等生産状況調査」の花木類の産出額(出荷額)を追加している。
 ・農業総産出額の数値には「令和3年産花木等生産出荷統計」の花木類の産出額が含まれていない。

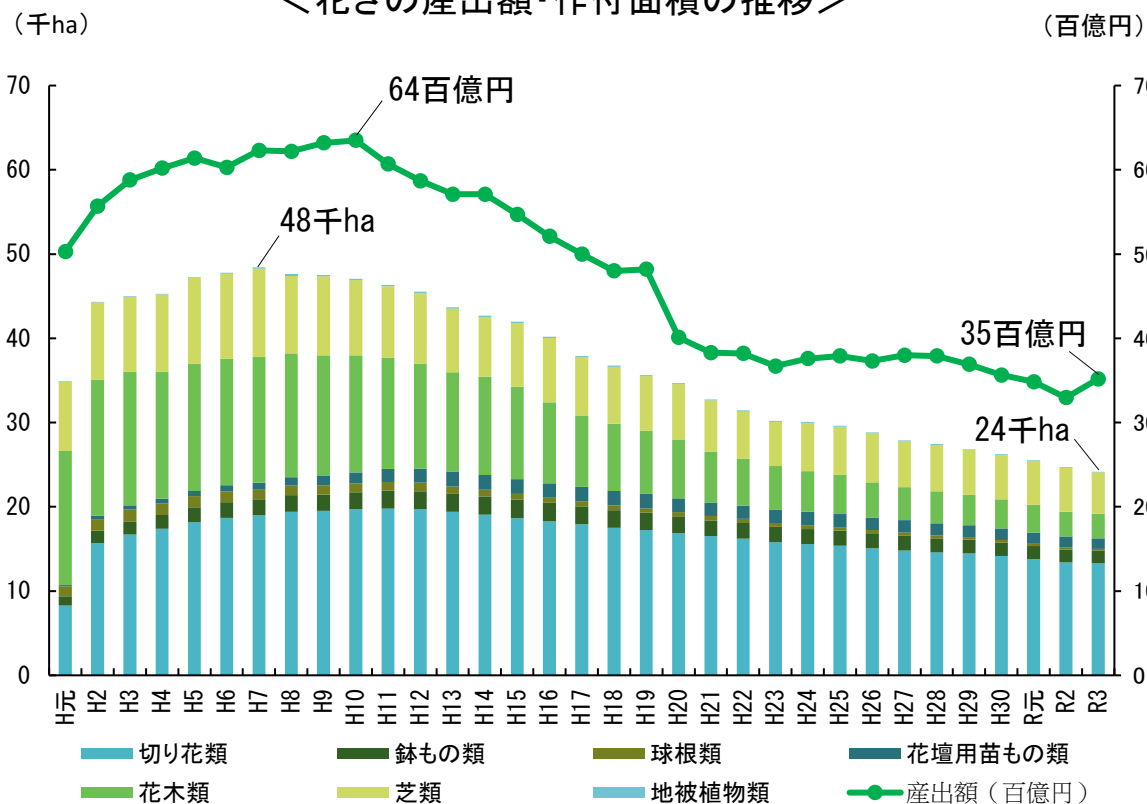
資料: 農林水産省「令和3年生産農業所得統計」、「令和3年産花木等生産状況調査」

2. 花きの生産

(2) 花き生産の現状(産出額・作付面積)

- 花きの作付面積は平成7年の48千ha、産出額は平成10年の64百億円をピークに全品目を通じて減少傾向。近年は漸減傾向で推移。
- 花きの主要産地は、愛知県、千葉県、福岡県など。愛知県にあっては、花きは県内の農業産出額全体の2割を占める。

＜花きの産出額・作付面積の推移＞



＜花きの県別産出額(令和3年)＞

単位: 億円

順位	県名	産出額 (全国シェア)	県内の農業産出額に占める割合
1	愛知	569 (16%)	20%
2	千葉	228 (7%)	7%
3	福岡	207 (6%)	11%
4	埼玉	172 (5%)	11%
5	静岡	170 (5%)	8%

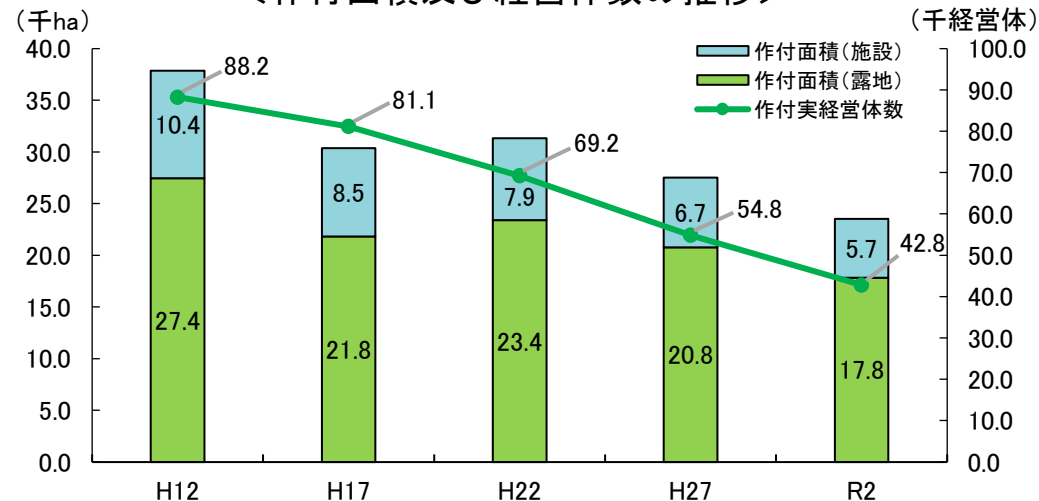
資料: 農林水産省「令和3年生産農業所得統計」、「令和3年産花木等生産状況調査」
※「生産農業所得統計」の産出額に、「花木等生産状況調査」の産出額を追加している。

2. 花きの生産

(2) 花きの生産の現状(生産者構成)

- 花きの販売農家は減少傾向で推移し、令和2年における販売目的の農業経営体数は42.8千戸。
- 花きの生産者年代構成は、45歳未満が8%、45歳から59歳までが21%、60歳以上が72%となっている。

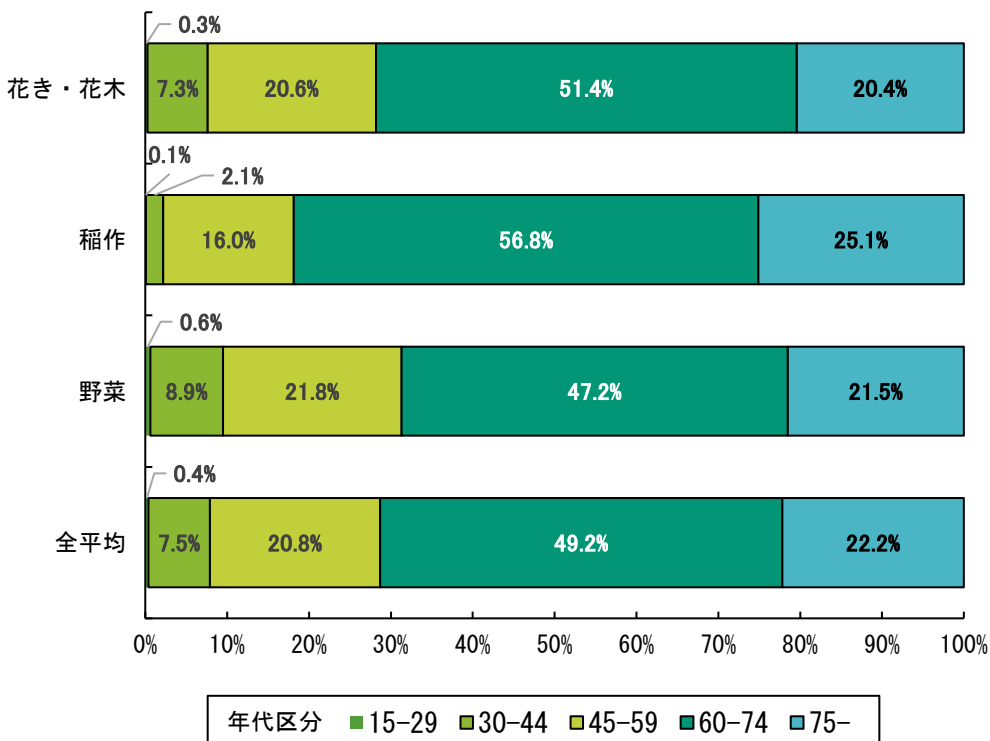
＜作付面積及び経営体数の推移＞



資料：農林水産省「農林業センサス」

※「販売農家」… 経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家

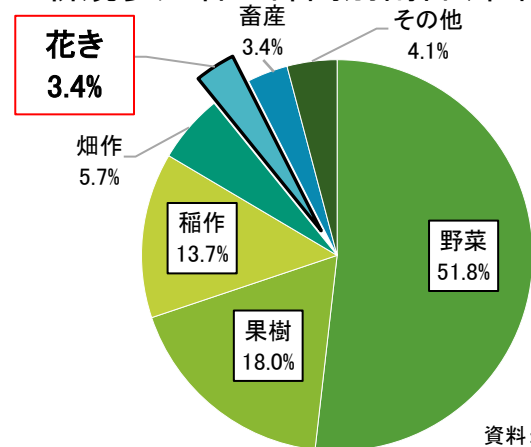
＜生産者年代構成の比較＞



資料：農林水産省「2020年農林業センサス」第3巻 農林業経営体調査報告書 農業経営主年齢別統計 (3) 農業経営組織別経営体数 単一経営経営体 (主部門の販売金額が8割以上の経営体)

※全平均は、全営農類型の平均をとったもの

＜新規参入者の部門別割合(令和4年)＞



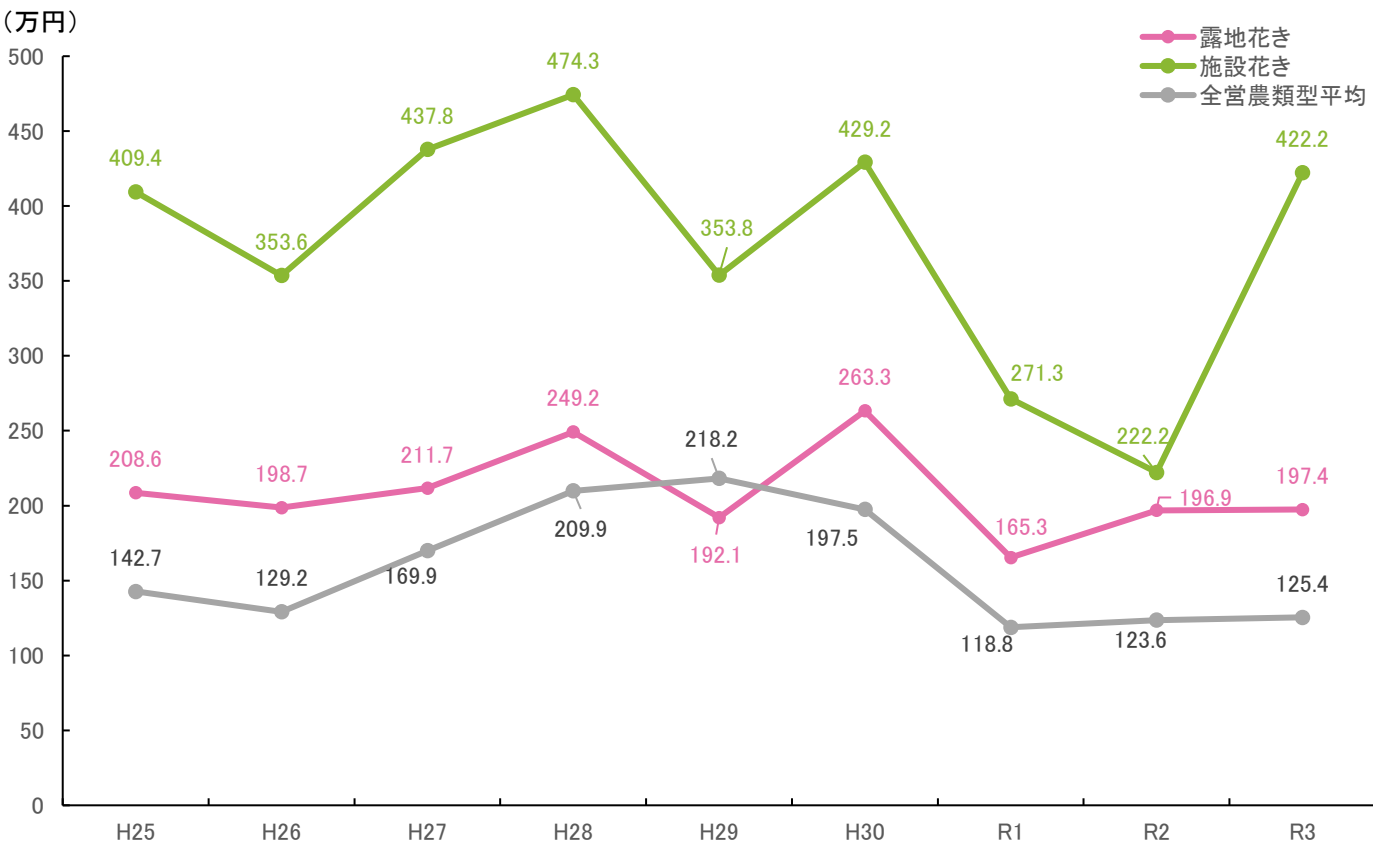
資料：農林水産省「令和4年新規就農者調査結果」

2. 花きの生産

(2) 花きの生産の現状(農業所得)

○ 花きの農家の農業所得は、品目や経営面積等によって大きく異なるが、令和3年度の平均所得は露地栽培では197万円、施設栽培では422万円であり、全営農類型所得平均125万円と比較して高い傾向にある。

＜栽培形態別 花き農家(全農業経営体)の所得推移＞



(参考 施設花き作の経営収支)

	R2	R3	増減率
農業粗収益	1,777.8	2,211.3	24.4%
うち作物収入	1,703.9	2,002.8	17.5%
共済・補助金等受取金	67.4	196.0	190.8%
農業経営費	1,555.6	1,789.1	15.0%
うち種苗費	156.1	201.4	29.0%
諸材料費	150.7	178.1	18.2%
荷造運賃手数料	227.4	261.8	15.1%
雇人費	257.0	309.5	20.4%
農業所得	222.2	422.2	90.0%
施設花き作の作付け延べ面積	4,089.6	4,295.8	5.0%

(参考 露地花き作の経営収支)

	R2	R3	増減率
農業粗収益	849.3	884.8	4.2%
うち作物収入	797.4	795.6	-0.2%
共済・補助金等受取金	48.7	74.0	52.0%
農業経営費	652.4	687.4	5.4%
うち農業衛生費	48.3	52.2	8.1%
修繕費	31.4	36.1	15.0%
荷造運賃手数料	105.3	116.4	10.5%
雇人費	114.2	124.7	9.2%
農業所得	196.9	197.4	0.3%
露地花き作の作付け延べ面積	68.4	69.0	0.9%

資料：農林水産省「農業経営統計調査 令和3年営農類型別経営統計」（全農業経営体（個人経営体及び法人経営体）の数値）

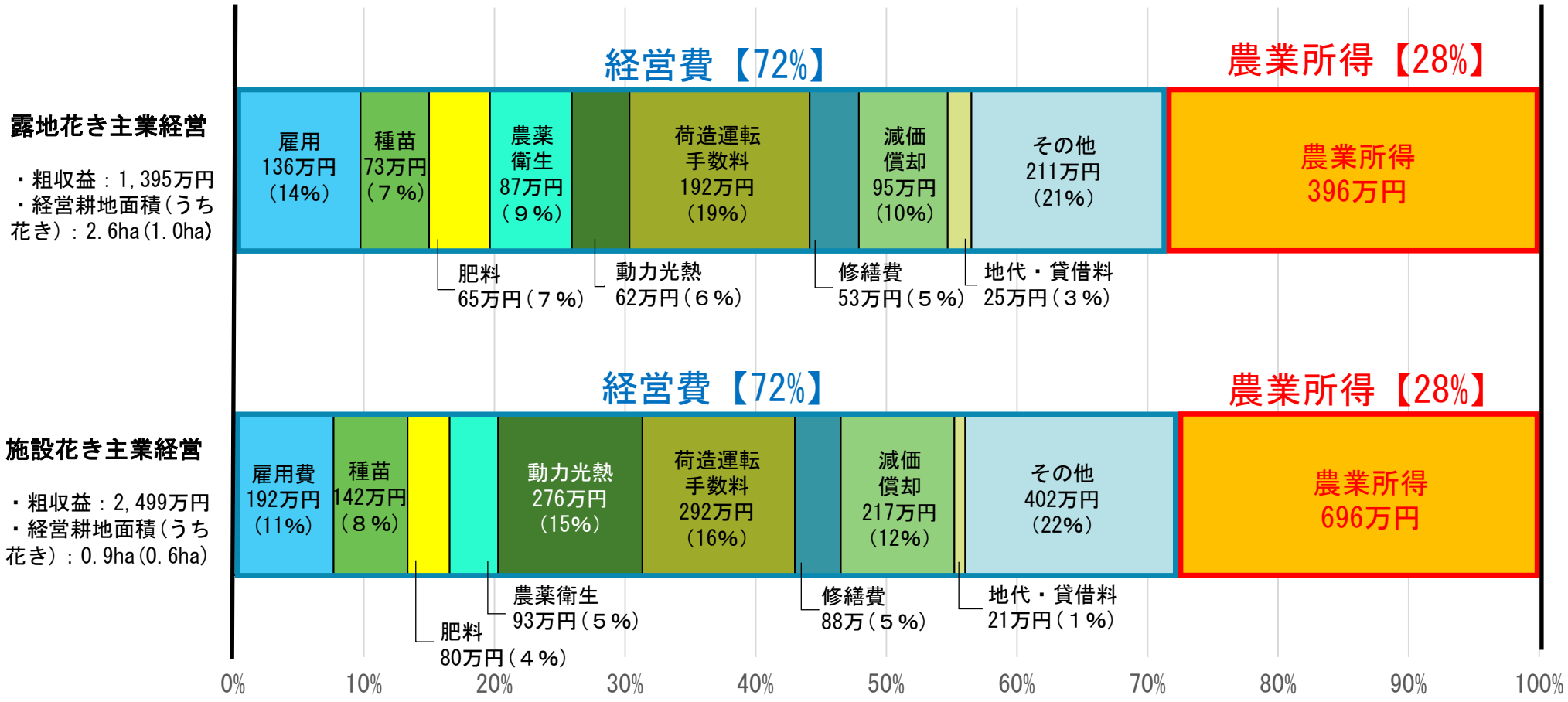
※平成25年（2013年）から平成30年（2018年）までの数値は、「農業経営統計調査 経営形態別経営統計（個別経営）」及び「農業経営統計調査 経営形態別経営統計（組織法人経営）」の集計結果から推計した数値

※令和元年（2019年）調査から調査票を税務申告資料から転記する形式に変更。平成30年（2018年）以前は農業経営費に市場手数料、交際費等が含まれていない

2. 花きの生産

(2) 花きの生産の現状(農業所得)

- 花きの主業経営体の粗収益に占める所得の割合は、施設栽培と露地栽培でほぼ同じ。
- 経営費に占める主要経費をみると、施設栽培の場合は、露地栽培よりも動力光熱費の割合が高くなっている。



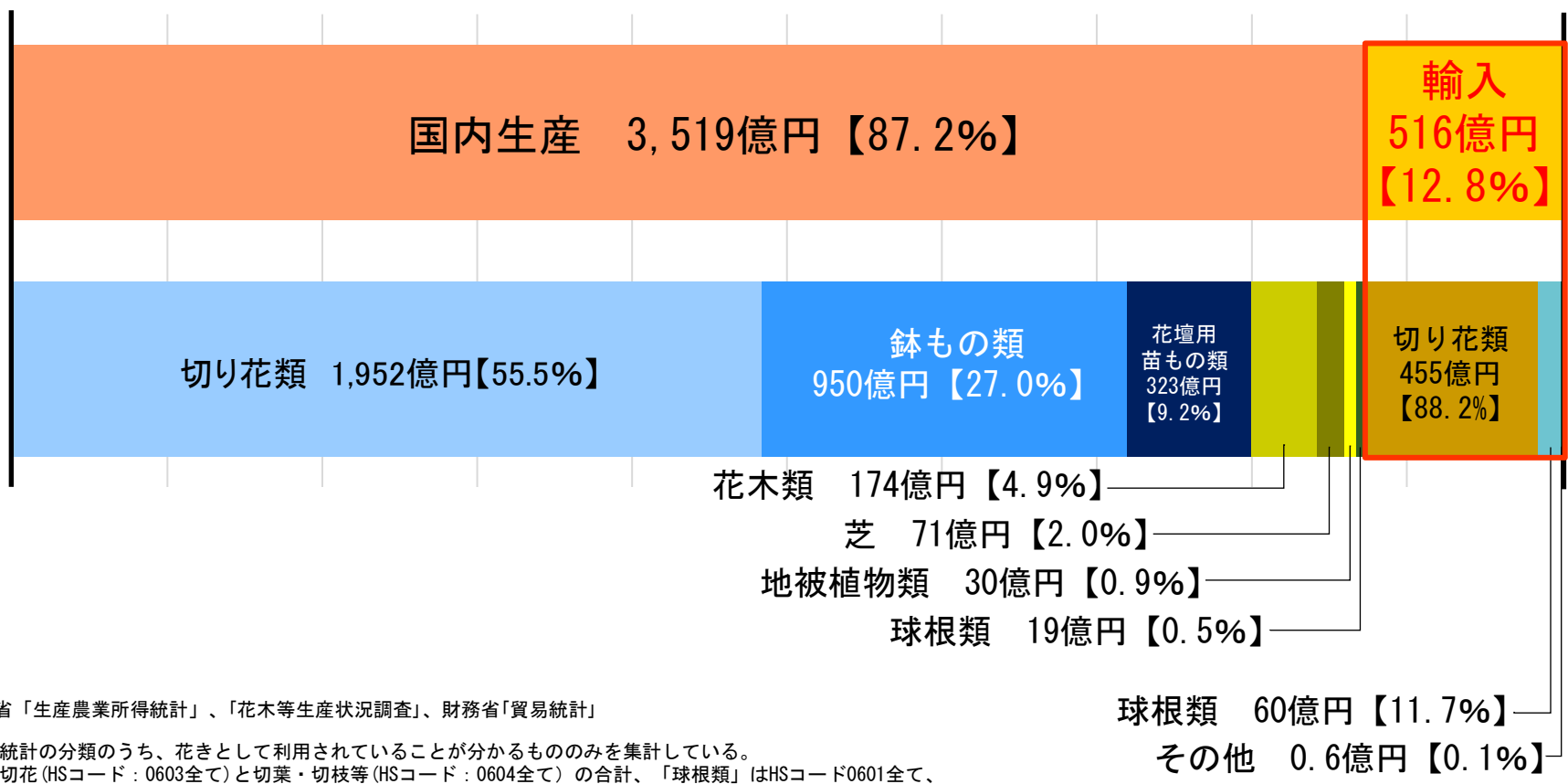
資料: 農林水産省「農業経営統計調査 令和3年営農類型別経営統計」
 ※主業経営体: 花き作経営の中で、農業所得が「農業+農業関連事業+農業外所得」の50%以上で、60日以上自営農業に従事している65歳未満の者がいる農業経営体
 ※労働時間、粗収益、経営費及び農業所得は、花き以外の作物も含む

2. 花きの生産

(2) 花きの生産の現状(需給構造(金額ベース))

- 花きの国内流通のうち、国内生産(金額ベース)は約9割で、輸入は約1割。
- 国内生産のうち約6割は切り花類で、鉢ものの類、花壇用苗ものの類が続く。
- 輸入のうち約9割は切り花類が占めている。

<花きの需給構造(令和3年)>



資料：農林水産省「生産農業所得統計」、 「花木等生産状況調査」、財務省「貿易統計」

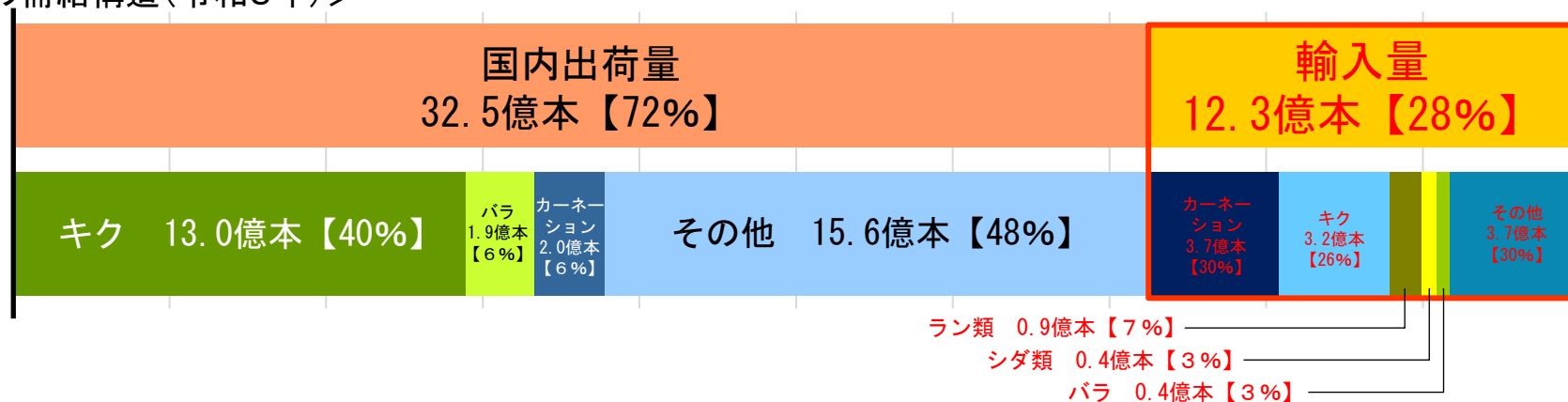
※輸入は、貿易統計の分類のうち、花きとして利用されていることが分かるもののみを集計している。
「切り花類」は切花(HSコード：0603全て)と切葉・切枝等(HSコード：0604全て)の合計、「球根類」はHSコード0601全て、
「その他」はしゃくなげ・つつじ(HSコード：0602.03-000)とばら(HSコード：0602.40-000)の合計。

2. 花きの生産

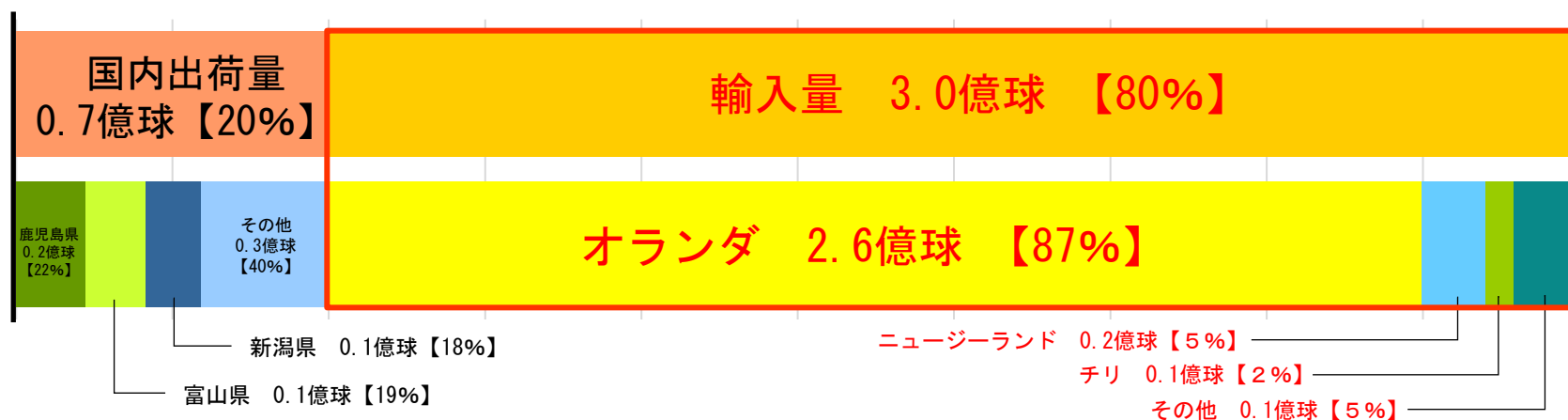
(2) 花きの生産の現状(切り花及び球根の需給構造(数量ベース))

- 切り花の国内流通のうち輸入割合(数量ベース)は28%となっており、特にカーネーション、キク、ラン類の輸入割合が高い。輸入の主な相手国は中国、コロンビア、マレーシア、ベトナム等。
- 球根の輸入割合(数量ベース)は80%で、大半はオランダからの輸入となっている。

<切り花の需給構造(令和3年)>



<球根の需給構造(令和3年)>



2. 花きの生産

(2) 花きの生産の現状(技術・品種開発)

- 花きの育種については、種苗会社や生産者などの個人により主に行われている。
- 多様な育種素材を保有する民間会社・個人育種家と、耐病性や日持ちの良さ等の優れた遺伝資源を保有する研究機関等が連携により、新品種の育成を加速化。

萎凋細菌病抵抗性カーネーション品種

〈恋花ルーージュ〉

- ・農研機構は土壌障害である萎凋細菌病に抵抗性を有するカーネーション品種「恋花ルーージュ」を開発。(2010年品種登録)
- ・萎凋細菌病の平均罹患率は、罹病性品種「フランススコ」87.0%、「ノラ」97.1%、「恋花ルーージュ」7.1%。



恋花ルーージュ



萎凋細菌病抵抗性検定の様子
左から「ノラ」「恋花ルーージュ」
「フランススコ」

〈ひめかれん〉

- ・農研機構と長崎県は「恋花ルーージュ」と同等の抵抗性を有するカーネーション品種「ひめかれん」を共同開発。(2019年品種登録)



ひめかれん

日持ち性向上ダリア品種

〈エターニティシリーズ〉

- ・ダリアは日持ちが短い(常温(23℃)で1週間の日持ち保証は困難(2011年))という課題があったが、農研機構は2020年に日持ち性に優れるエターニティピーチ、エターニティロマンス、エターニティルーージュ(日持ち性は主要品種「かまくら」の1.4~2.1倍)を開発。
- ・2023年には美しいグラデーション花色のエターニティピーチ(日持ち性は主要品種「かまくら」の1.2~1.6倍)、エチレン低感受性で流通適性に優れるエターニティシャイン(日持ち性は主要品種「かまくら」の1.5~2.9倍)を開発。



エターニティピーチ

エターニティシャイン

資料:

- ・農研機構 野菜花き研究部門2020年の成果
- ・農研機構 2023年野菜花き研究部門 プレスリリース

新たな花色の開発

〈青いキク〉

- ・キクには青い花をもつ近縁野生種が存在しないため、交配等による育種では青色の花の開発は困難だった。
- ・農研機構とサントリーグループは2017年に遺伝子組換え技術を用いた「青いキク」の開発に成功。国内での栽培・販売に向けて生物多様性影響リスクを低減するための研究開発を進めている。

野生型
(桃色)



2013年開発
(紫色)

2017年開発
(青色)

資料: 農研機構 2017年野菜花き研究部門プレスリリース

2. 花きの生産

(3) 花きの生産における課題(エネルギー問題①)

- 近年、燃油価格は乱高下を繰り返しており、経営費に占める燃料費の割合が大きい施設園芸の経営を圧迫。
- 省エネルギー化に資する設備や技術の導入など燃油価格の高騰の影響を受けにくい生産体系への転換が必要。

<農業経営費に占める燃料費の割合>

農業	ピーマン	22%
	温州ミカン	40%
	ばら	23%
漁業	いか釣(沿岸)	23%
他産業	乗合バス	8.6%

農業:産地の経営指標により作成。

漁業:令和3年漁業経営調査報告。

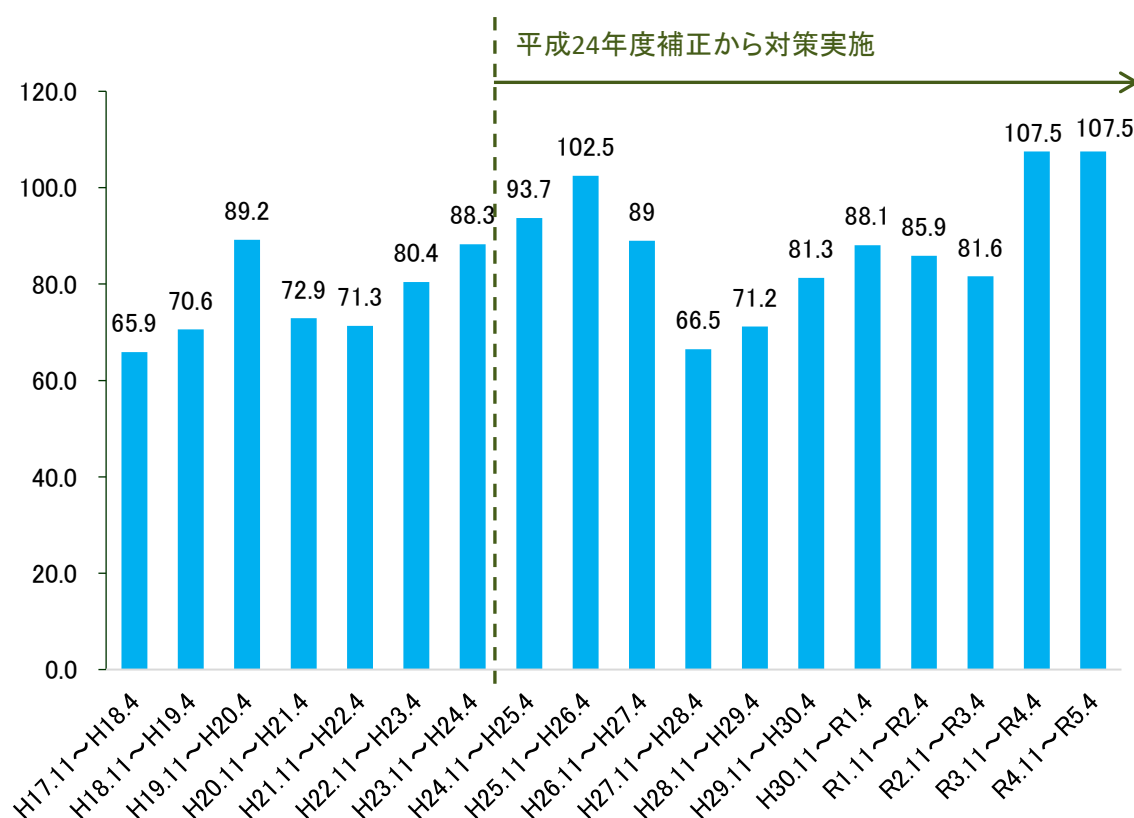
他産業(乗合バス):国土交通省「令和3年度乗合バス事業の収支状況」より引用。

<花きの生産における燃油の使用量>

品目	1000㎡あたりの使用量(ℓ)
スイートピー	4,130
バラ	13,500
トルコギキョウ	10,000
ランタンキュラス	5,000

資料:「宮崎県農業経営管理指針(2020年)」

<最近の燃油価格(加温期間の平均価格)>



資料:「農業物価統計」

注:施設園芸の加温期間(11月~4月)におけるA重油の平均価格

2. 花きの生産

(3) 花きの生産における課題(エネルギー問題②)

- 冬期の加温等に使用される燃油価格は、為替や国際的な商品市況によって大きく変動しており、経営費に占める燃料費の割合が高い施設園芸等農家の経営に影響を及ぼしていることから、燃油価格の高騰に影響を受けにくい経営構造への転換を進めることを目的として施設園芸等燃油価格高騰対策を実施

< 目的と基本的な仕組み >

施設園芸等燃油価格高騰対策の目的 燃料価格高騰の影響を受けにくい経営への転換

基本① 支援対象者

施設園芸農家3戸以上又は農業従事者5名以上で構成する農業者団体等

基本② 省エネルギー等対策推進計画

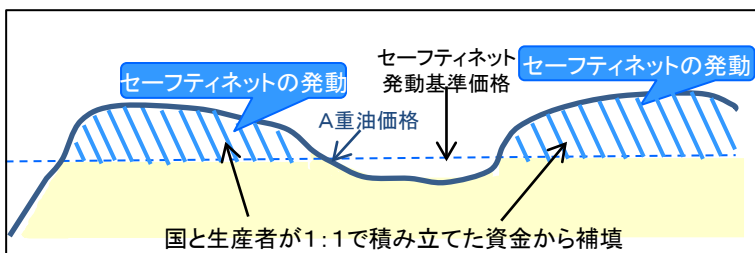
支援対象者は、3年間で燃料使用量の15%以上削減する省エネ目標と、目標達成に向けた取組を設定。

※ 初めて取り組む場合は3年間で10a当たり燃料使用量を15%以上削減、2期目以降に継続して取り組む場合は、3年間で10a当たり燃料使用量を更に15%削減するほか、単位生産量(額)当たり燃料使用量を15%以上削減する目標(収量増で達成可能)を立て、計30%以上の省エネに取り組む。

計30%以上の削減を達成した者は、自身の削減目標を定め、更なる省エネに向けて不断に取り組む。

基本③ 施設園芸セーフティネット構築事業

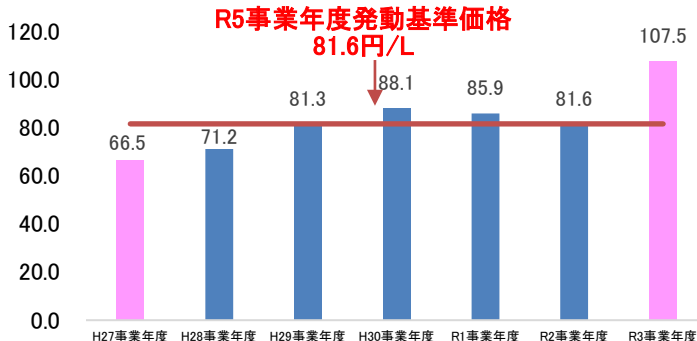
- ① 支援対象者は、セーフティネットの対象期間を選択し、燃料購入数量を設定して補填積立金を納入(国と生産者が1:1で積み立て)。
- ② 省エネルギー等対策推進計画の目標達成に向けて取組を実施し、燃料価格が一定の基準を超えた場合に補填金を交付。



< 対策のポイント >

【ポイント1】セーフティネット発動基準価格、補填対象数量

過去7年間のA重油価格のうち最高値1年分と最安値1年分を除いた5年の平均価格を発動基準価格とし、当該月購入数量の70%補填対象数量とする。



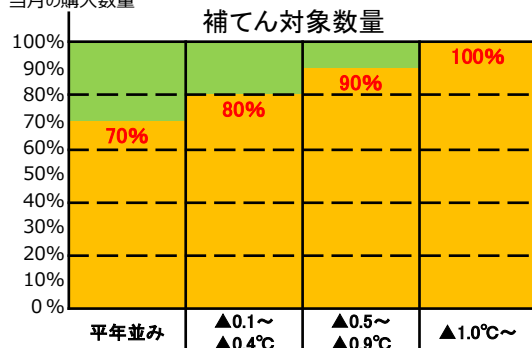
※補填金=補填単価×当月購入数量の70%
補填単価=発動基準価格との差額
(R5事業年度)=価格-81.6円/L



【ポイント2】低温特例措置

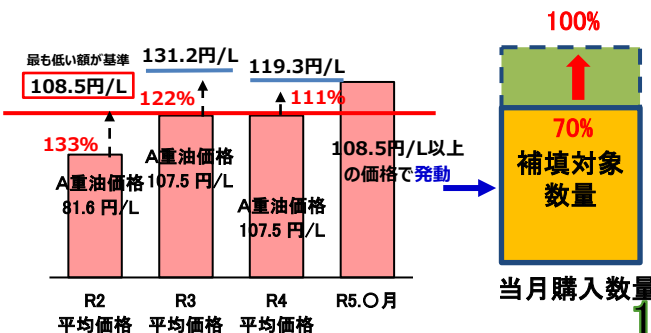
当月の気温が平年気温を下回った場合、段階的に補填対象数量を引き上げ。

当月の購入数量



【ポイント3】急騰特例措置

燃料価格が、前年加温期間の平均価格より11%以上高騰し、かつ、7中5平均の価格を上回った場合、補填対象数量を引き上げ。
(2年前の22%、3年前の33%上昇時も発動)



3. 花きの流通

(1) 花きの流通の現状

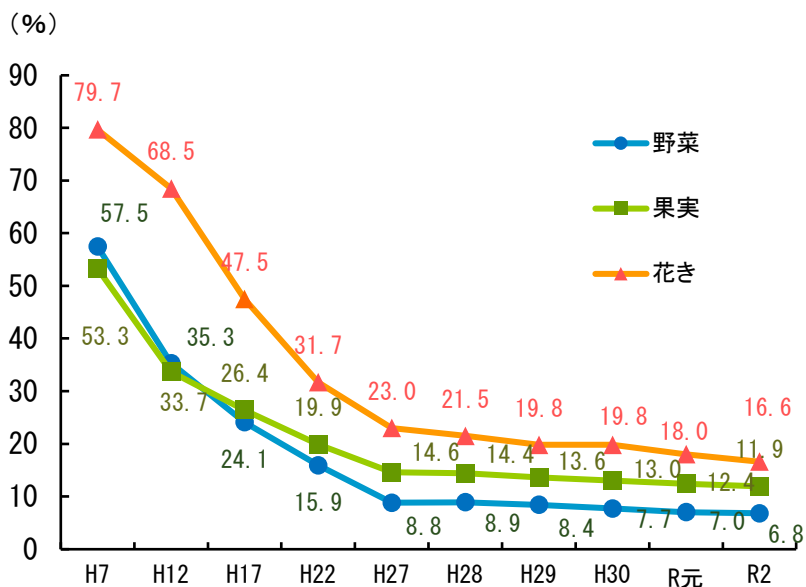
- 国産花きの流通は、品目・品種が非常に多いこと、小売構造が零細であることにより、卸売市場経由率が約7割と高い。
- 卸売市場における取引には、せり取引と相対取引があるが、花き中央卸売市場における、せりによる取引の割合(金額ベース)は約2割。野菜・果実に比べて高いものの、平成7年の約8割から低下傾向。
- 大都市の花き市場では、コンピュータを使った自動せり機による「機械せり」が定着している。多種多様な花きは一日の取扱数量が多いため、機械せりの導入により、取引時間の短縮、人員の削減を実現。
- 花きの小売価格に占める小売経費は約5割を占め、小売経費の内訳は販売経費、管理経費、人件費であり、この内、管理経費が最も高い割合である。

<農水産物の卸売市場経由率(%)>

品目/年度	H7	H12	H17	H22	H26	H27	H28	H29	H30	R元
青果	74.0	70.4	64.5	62.4	60.2	57.5	56.7	55.1	54.4	53.6
	野菜	80.5	78.4	75.2	73.0	69.5	67.4	67.2	64.8	63.2
	果実	63.4	57.6	48.3	45.0	43.4	39.4	37.7	37.6	35.8
水産物	67.6	66.2	61.3	56.0	51.9	52.1	52.0	49.2	47.1	46.5
花き	81.9	79.1	82.8	83.4	77.8	76.9	75.6	75.0	73.6	70.2

資料:農林水産省「令和3年度卸売市場データ集」

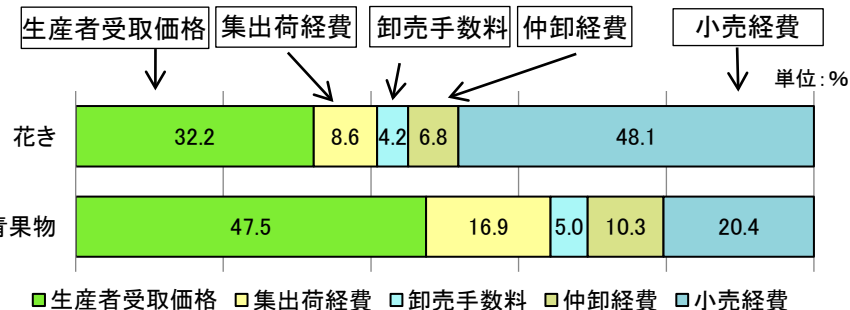
<中央卸売市場におけるせりの割合(金額ベース)>



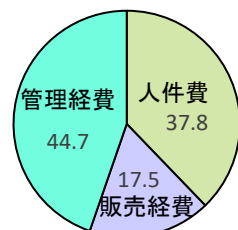
単位: %

資料:農林水産省「令和3年度卸売市場データ集」

<青果物及び花きの小売価格の構成比(試算)の比較>



<花き:小売経費の内訳>



※小売経費の内訳は、小売業者(花き専門店・スーパー、ホームセンター)の平均

資料:(花き)「平成21年度 花き産業の流通コストに関する調査」(農林水産省委託事業)

※1 小売業者が仲卸業者から仕入れた場合の試算。

※2 生産者選別荷造労働費は、生産者受取価格に含め、集出荷経費に含めない。

(青果物)「平成29年度 食品流通段階別価格形成調査」

3. 花きの流通

(2) 物流の2024年問題

- トラックドライバーの長時間労働是正のため、2024年度より時間外労働の上限規制(年間960時間)が適用。
- 物流の効率化に取り組まなかった場合、労働力不足による物流需給がさらに逼迫するおそれがあり、コロナ前の2019年比で最大14.2%(4.0億トン)の輸送能力不足が起こると試算※されている。
- さらに、2030年には、34.1%(9.4億トン)の輸送能力不足※が懸念される。

※株式会社NX総合研究所試算(2022年11月11日)

「物流の2024年問題」の影響により不足する輸送能力試算

○全体

不足する輸送能力の割合(不足する営業用トラックの輸送トン数)
14.2%(4.0億トン)

○発荷主別(抜粋)

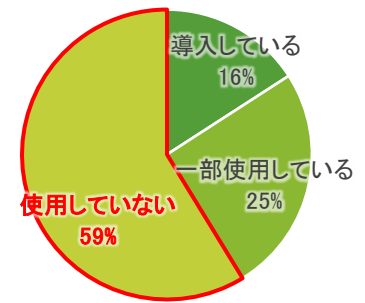
業界	不足する輸送能力割合
農産・水産品出荷団体	32.5%
紙・パルプ(製造業)	12.1%
建設業、建材(製造業)	10.1%
自動車、電気・機械・精密、金属(製造業)	9.2%

○地域別(抜粋)

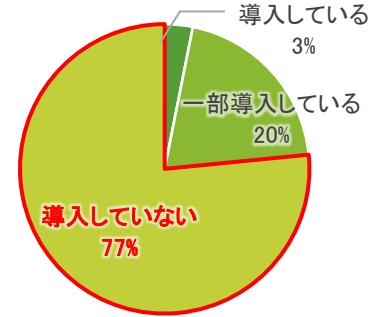
地域	不足する輸送能力割合
中国	20.0%
九州	19.1%
関東	15.6%
中部	13.7%

花き流通の現状(パレット・台車、受発注情報)

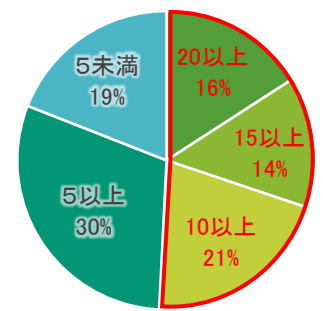
①現在、花き輸送にパレットを導入しているか。



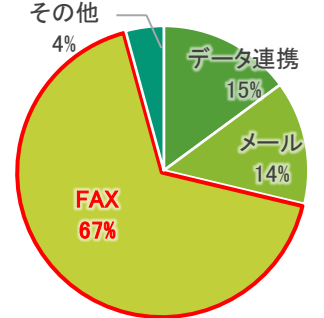
②現在、花き輸送に台車を導入しているか。



③花き輸送に使用する箱は何種類あるか。



④産地から市場への情報伝達はどのように行っているか。(複数回答)



資料:株式会社NX総合研究所試算(2022年11月11日)

資料:花き流通標準化ガイドラインの検討に向けた実態調査(花き流通標準化検討会資料)全国の農協を対象にアンケート調査を実施(令和4年度実施 回答数64)

3. 花きの流通

(2) 物流の2024年問題(課題と対応方向)

<各産地の花き流通の課題解決に向けて、花き流通効率化ガイドライン等に基づく取組を推進>

花き流通の課題

□ 荷積み、荷下ろしは手作業

- ・品目ごとに横箱、縦箱、鉢物、ELFバケツ等様々な形態があるうえ、荷積み、荷下ろしは手作業が多い。



□ 出荷箱のサイズがバラバラ

- ・形がバラバラで荷積みにかかる時間がかかる。
- ・トラックの積載効率が悪い。
- ・品目や産地ごとに出荷箱が異なるため、出荷箱コストの低減が難しい。



□ 小ロット、非効率な輸送方法

- ・小ロットの出荷が多く、輸送コストが割高。
- ・1つの集荷先ではロットが確保できず、トラックが複数の集荷先を回らなければならない産地もある。

□ 電話やFAXでの受発注

- ・農家との受発注が電話・FAXで行われ、JA等で発注情報のデータ入力作業を行っている産地が多い。
- ・段ボールの中身も手書きの場合があるため、検収は一つ一つを人が目視で確認。

今後の対応方向

□ 標準規格のパレット・台車輸送の導入

- 荷積み荷下ろし時間が手荷役よりも大幅に削減でき、荷待時間も削減。



□ 出荷箱サイズの統一

- 荷役に係る作業時間の短縮。
- トラック積載効率の向上。
- 発注ロットの大型化による箱資材費の低減。



□ スtockポイントの整備

- 他品目との混載による積載率の向上や共同配送による輸送の効率化、低コスト化。
- トラック運転手の集荷時間の削減。

□ 受発注情報等のデジタル化

- 受発注作業の時間短縮。
- 産地からのデジタル出荷情報等の付与による検収作業の機械化。
- 販売動向の把握や在庫管理が容易。



<参考>花きの流通標準化ガイドラインの概要

○令和4年7月より市場関係者、生産者団体、運送業者、行政等により構成される花き流通標準化検討会が設置され、令和5年3月に「花き流通標準化ガイドライン」を公表。本ガイドラインを踏まえ、各花き産地等でのパレット・台車導入や段ボール箱規格の統一、受発注情報のデジタルデータ化等を進めていく。

<花き流通標準化ガイドラインにおける標準化項目について>

台車の統一

- 産地の出荷拠点から卸売市場までの幹線輸送における手荷役解消のため、台車での輸送を推奨。
- 鉢物については、全国的に利用されているフル台車のサイズと実証実験で開発したハーフ台車のサイズを標準的な台車のサイズとして推奨する。
(写真左)フル台車:W1,055mm×D1,285mm×H2,068mm
(写真右)ハーフ台車:W520mm×D1,280mm×H1,900mm
- 切り花については、使用実態に応じ原則としてフル台車、ハーフ台車での輸送を推奨する。



パレットサイズの統一

- 産地の出荷拠点から卸売市場までの幹線輸送における手荷役解消のため、パレットでの輸送を推奨。
- 平面サイズ1,100mm×1,100mmを標準とする。



段ボールサイズの統一

- 標準の平パレット1,100mm×1,100mmに合わせ、例えば次のようなサイズの横箱段ボールの使用を推奨する。
 - タイプA:長さ1,100mm×幅360mm×高さ260mm
 - タイプB:長さ1,100mm×幅360mm×高さ173mm
 - タイプC:長さ1,100mm×幅360mm×高さ130mm
 - タイプD:長さ1,100mm×幅275mm×高さ130mm など
- 必要に応じて縦箱段ボールの使用も可能とするが、横箱段ボールで流通に支障がないものについては、可能な限り横箱段ボールでの流通を推奨する。
- 検品作業等が効率的になるようラベル等の表示の向きをそろえた積み付けモデルを推奨する。



(写真)T11パレットに4種類の切り花標準箱を積上げた様子

情報伝達方式の統一

- ペーパーレス化・データ連携を前提とし、帳票の標準項目を定める。

送り状の標準項目

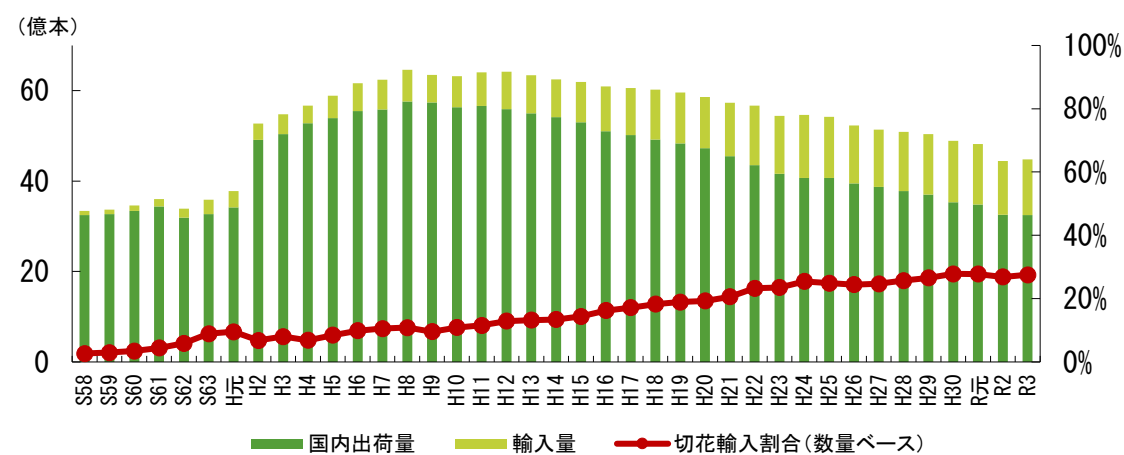
- | | |
|---------------|------------|
| ①出荷者 | ⑨品種名 |
| ②出荷者コード | ⑩品種名コード |
| ③出荷年月日 | ⑪荷姿 |
| ④送り状ナンバー | ⑫入数 |
| ⑤卸売業者名 | ⑬等階級 |
| ⑥卸売業者コード | ⑭数量(または箱数) |
| ⑦品名(または品目) | ⑮輸送手段 |
| ⑧品名(または品目)コード | ⑯輸送会社 |

4. 花きの輸入・輸出

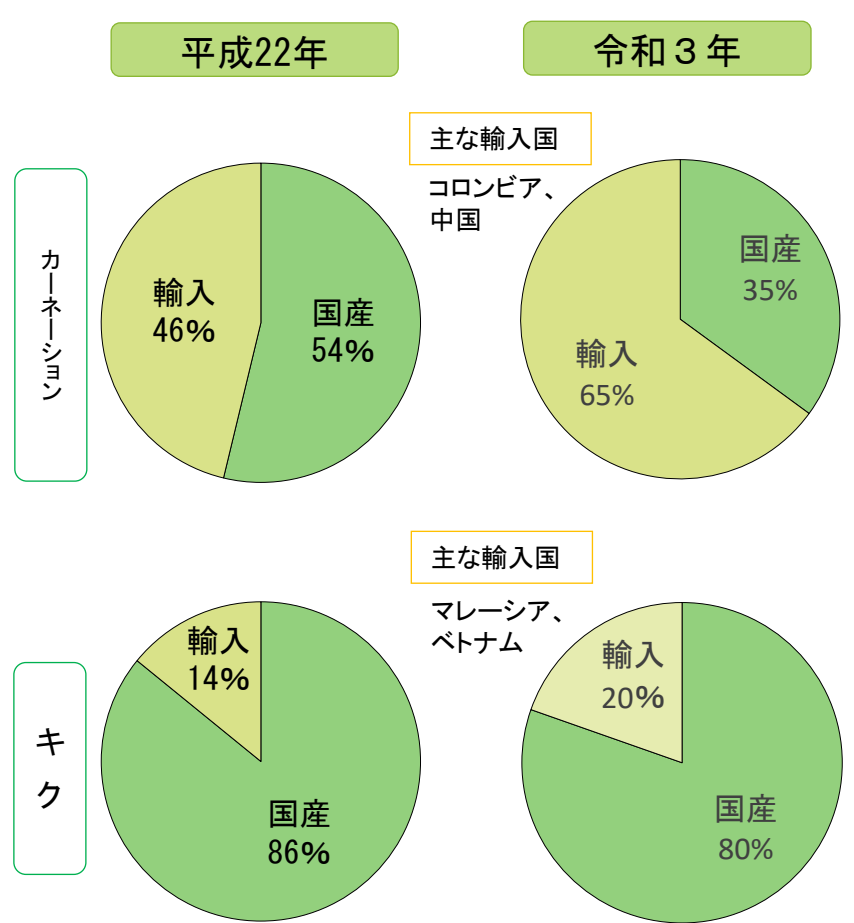
(1) 花きの輸入(輸入の推移)

- 花きの輸入は、切り花類が大半を占め、輸入割合は増加傾向。主な相手国は、中国、コロンビア、マレーシアなど。
- 母の日やお彼岸など需要が一時期に集中するカーネーション、キクといった品目の輸入割合が高い。

<切り花の国内出荷量・輸入量の推移>



<切り花の輸入割合の推移(カーネーション、キク)>



<切り花の主要品目別輸入割合・輸入量(令和3年)>

品目	国内流通量における輸入品の割合	輸入量 (億本)	主な輸入国					
			1位	割合	2位	割合	3位	割合
カーネーション	65%	3.73	コロンビア	68%	中国	23%	エクアドル	7%
キク	20%	3.17	マレーシア	45%	ベトナム	36%	中国	18%
バラ	17%	0.39	ケニア	47%	エチオピア	22%	コロンビア	7%
ユリ	2%	0.03	韓国	81%	ベトナム	14%	エクアドル	18%

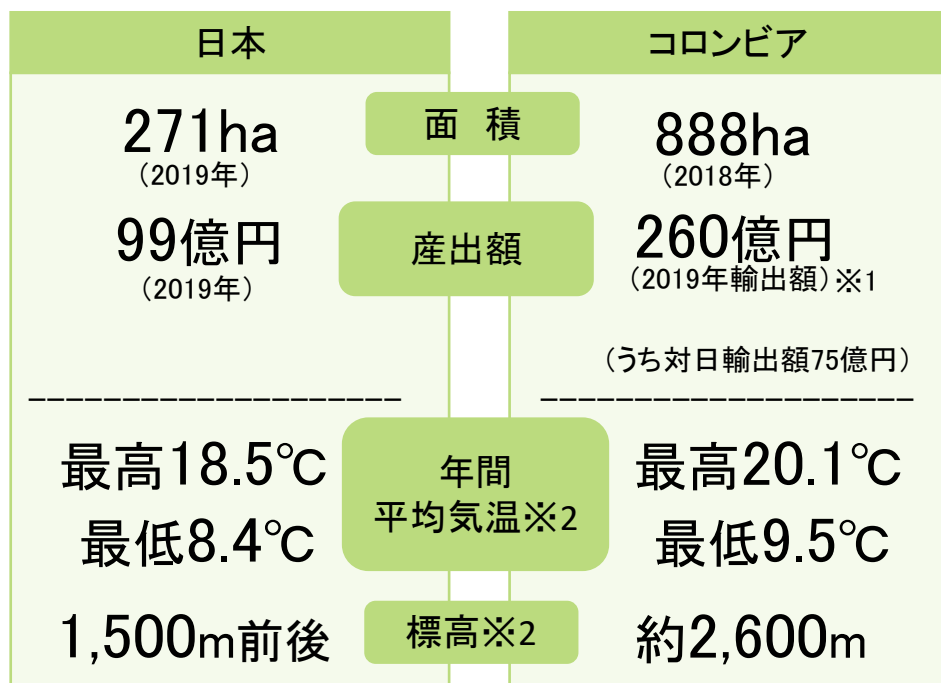
資料: 農林水産省「花き生産出荷統計」、「植物検疫統計」
 ※植物検疫統計のうち、カーネーションはナデシコ属、キクはキク属(キク科は含まない)
 バラはバラ属、ユリはユリ属(ユリ科は含まない)の集計結果

4. 花きの輸入・輸出

(1) 花きの輸入(輸入割合増加の具体例: 国内産及びコロンビア産カーネーションの比較)

- 年間平均気温は日本とコロンビアでほとんど差はないが、月別で見ると、コロンビアは年間を通じてほぼ一定であり、加温施設等が不要。⇒設備費、光熱費(特に燃油)等が不要。
- コロンビアは四季がないため、生産地が季節で移動することなく、周年で安定供給が可能。
また、1日の寒暖の差が大きく、カーネーションの発色や生育には最適。
- コロンビアの花き生産は、アメリカによる転作指導、コロンビア政府の国内治安改善策がうまく合致したことからスタート。

カーネーションの生産概況の対比



※1 1ユーロ=123.57円とした(2019年平均外国為替相場より(三菱UFJリサーチ&コンサルティング調べ))

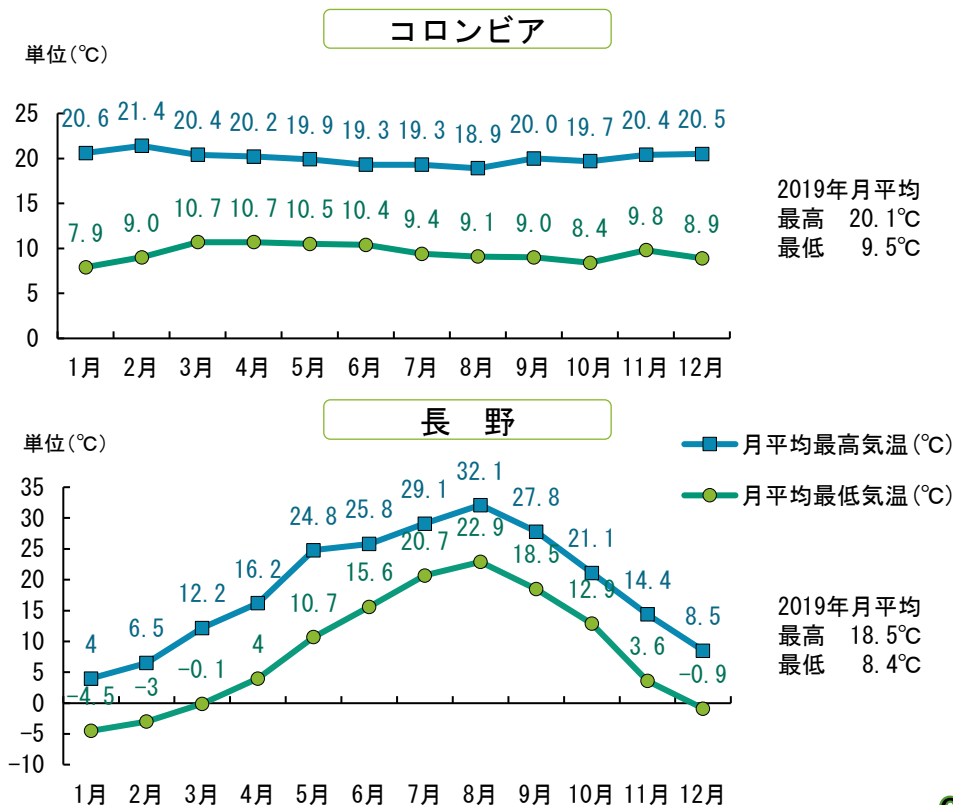
※2 年間平均気温、標高は長野及びボゴタの生産地近辺のもの

資料: 農林水産省「花き生産出荷統計」、「生産農業所得統計」(面積、産出額)、財務省貿易統計

International Statistics Flowers and Plants 2020(AIPH出版)(面積、コロンビア輸出額)

国土交通省気象庁「世界の天候データツール」(平均気温、標高)

平均気温の比較



<参考>花きの国産シェアの奪還！一日持ちの良さなど国産花きの強みを生かせる流通体制の確立

- 輸入花きからシェアを奪還するには、国産花きの鮮度、日持ちの良さ等の強みを活かすことが重要。
- 消費者が品質として重視する「日持ち」を良くするために、①温度管理(コールドチェーンの確立)、②衛生管理、③鮮度保持剤の使用等を生産・流通・小売各段階で徹底。

<国産花と輸入花の採花から小売店までの期間>

日数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
輸入花き (コロンビアのカーネーション)	採花	梱包	空港	空港	成田空港	分荷	市場 セリ	小売店			
国産花き	採花 調整	市場 セリ	小売店								

温度管理が徹底

温度管理が不徹底

資料：市場関係者からの聞き取り

※花き産業総合認証 (Milieu Programma Sierteelt)
花き生産業者、流通業者が行っている環境、法令、品質等の基準に適合した生産や流通を行っていることを認証するシステム

～切り花輸出先進国ケニアの事例～

- 外貨獲得のため、国策としてバラを中心とした切り花の生産及び輸出を振興。オランダ、コロンビア、エクアドルに次ぐ世界第4位の切り花輸出大国。
- ケニア統一ブランドを立ち上げ、EUにおいてオールケニアでの共通プロモーションを実施。
- 生産者が生産から加工、輸送、海外マーケティング、ブランディングまで完結した取組。
- MPS※等環境認証への取組も積極的。



花の鮮度・日持ち性をより向上する流通体制の確立

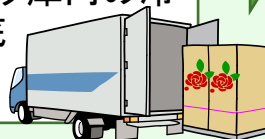
産地

- ・採花後の前処理(抗菌剤等で水揚げ)の実施
- ・出荷前の温度管理(低温保管)等の徹底



市場

- ・配送施設、卸売場の低温化
- ・輸送時の温度管理(積載前のトラック庫内の冷却等)の徹底



小売店

- ・市場から店舗まで搬送時の温度上昇の防止
- ・入荷時の適切な水揚げの実施、低温ショーケースの利用等



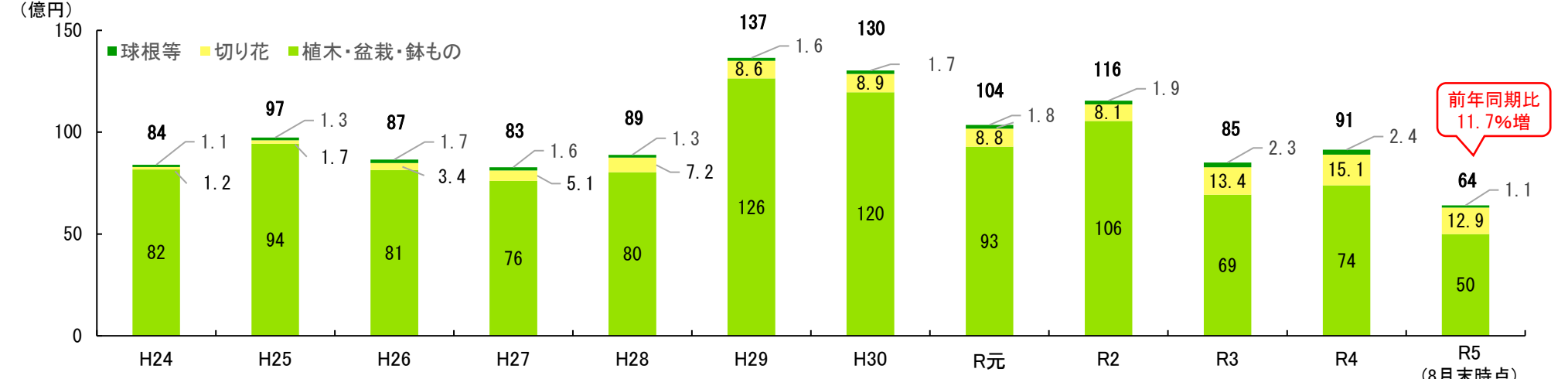
産地表示、日持ち保証販売により国産の強みを強調

4. 花きの輸入・輸出

(2) 花きの輸出(現状と目標)

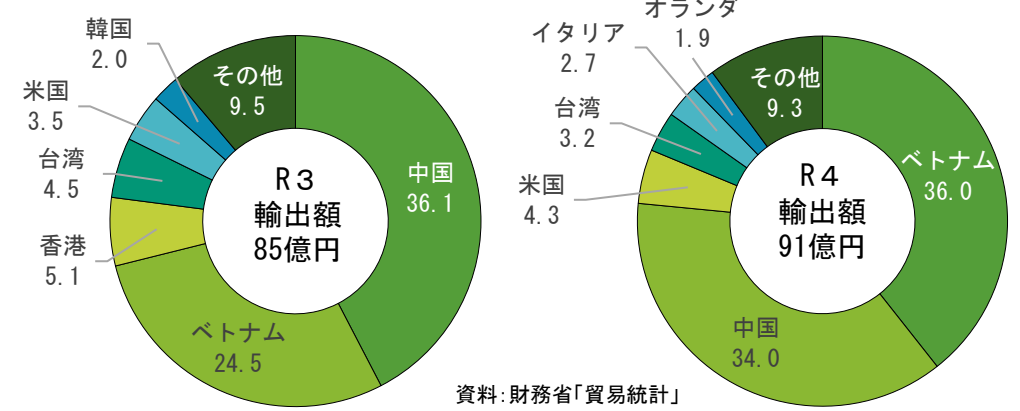
- 令和4年の花き全体の輸出額は、対前年比で7%増の91億円となった。また、輸出重点品目である切り花については、対前年比で13%増の15億円。
- 「新たな花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針」(令和2年4月21日公表)において、令和12年の目標として輸出額200億円を目指すこととしている。

<花き輸出額>



資料:財務省「貿易統計」

<国・地域別花き輸出額>



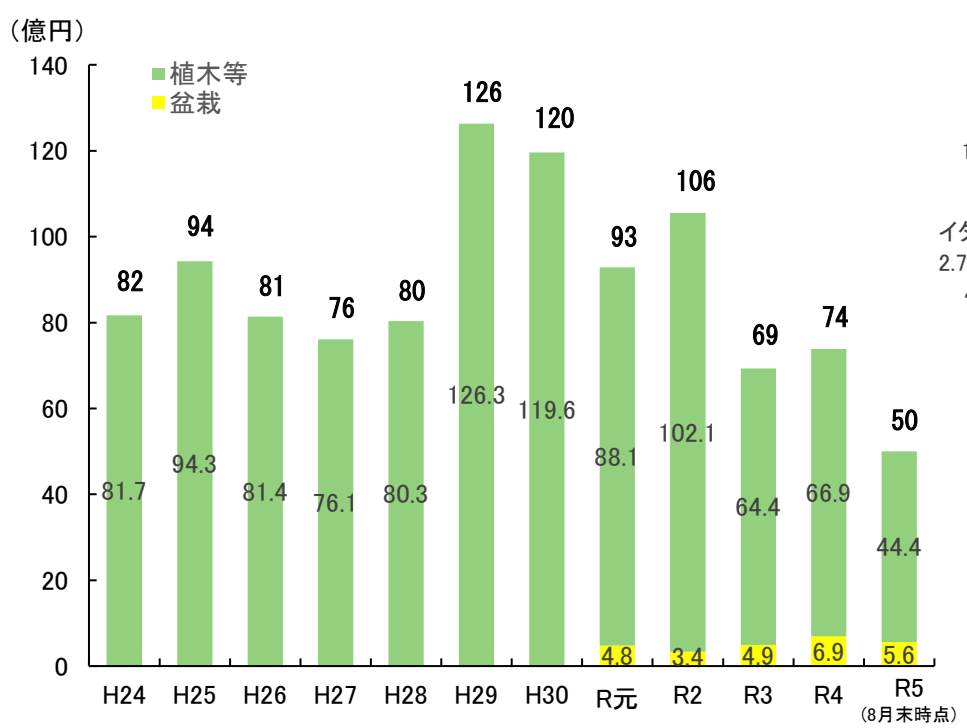
(写真)
日本産花きを使った
デモンストレーション(米国)

4. 花きの輸入・輸出

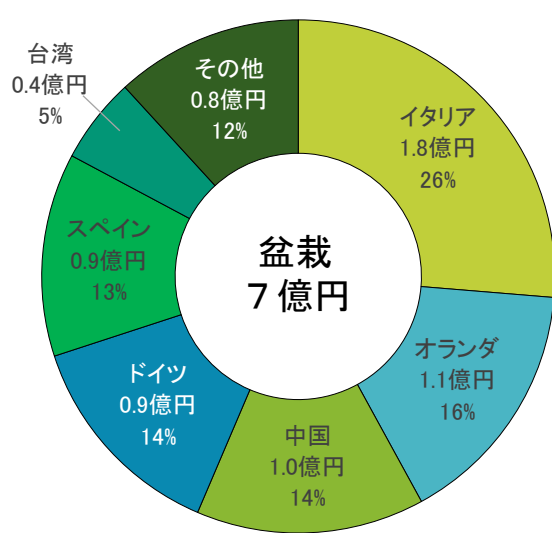
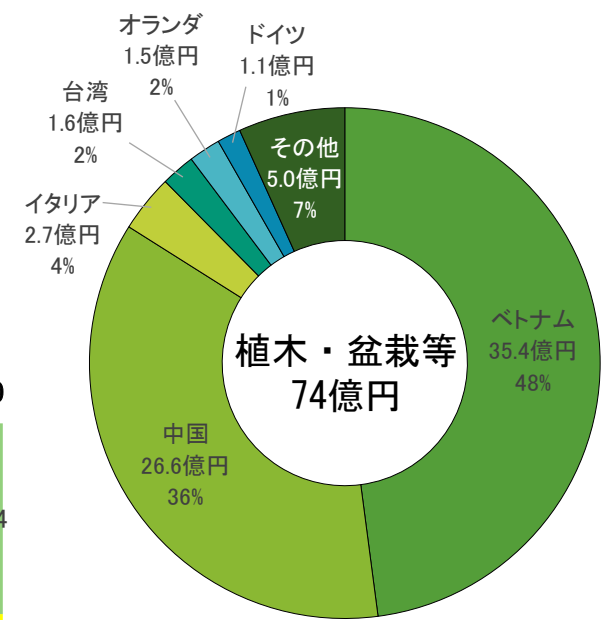
(2) 花きの輸出(植木・盆栽等の輸出)

- 植木・盆栽等の輸出額のうちベトナムと中国の2国で8割を占める。主要な輸出先国である中国において人気の高いイヌマキ植木の輸出が検疫等の事情により中断していることから、植木の輸出額は令和3年度以降減少している。
- 一方、盆栽の輸出額については、EU向けクロマツ盆栽の輸出解禁(令和2年10月1日解禁)等が追い風となり、輸出額が増加。

<植木・盆栽・鉢ものの輸出額>



<植木・盆栽・鉢ものの輸出額(国・地域別)(令和4年)>



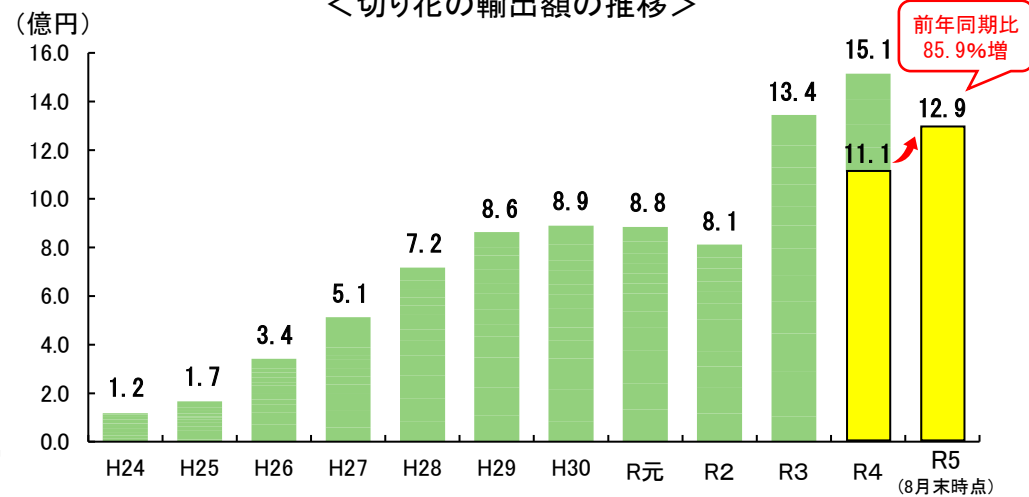
資料:財務省「貿易統計」
 ※HSコード
 植木等:0602.30-000, 0602.40-000, 0602.90-190, 0602.90-900
 盆栽:0602.90-110
 植木・盆栽等:0602.30-000, 0602.40-000, 0602.90-110, 0602.90-190, 0602.90-900

4. 花きの輸入・輸出

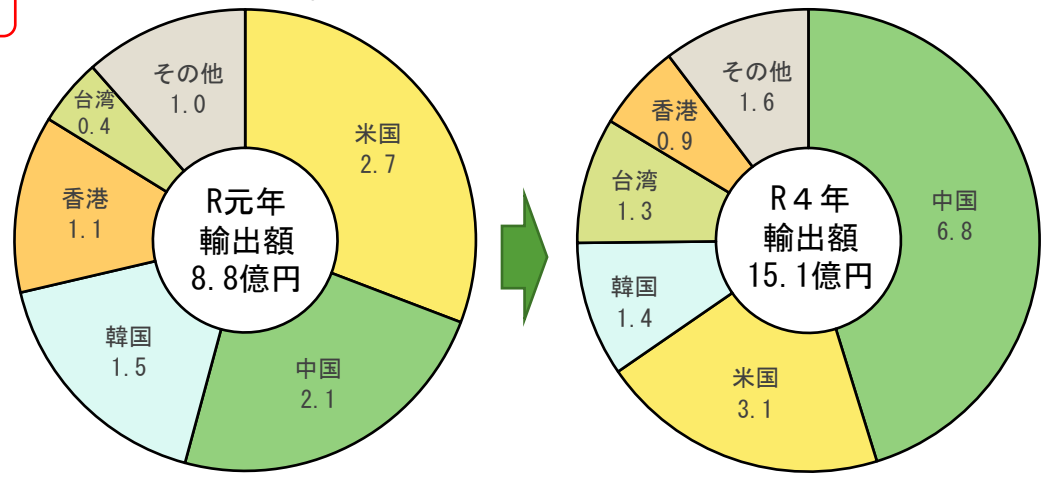
(2) 花きの輸出(切り花の輸出)

- 令和4年の切り花輸出額は、15億円で前年と比べ約13%増加。
- 近年では、近隣アジア各国向けの輸出が増加しており、中国向け輸出額は6.8億円と令和元年から約3倍増加。
- 主な輸出品目はスイートピー、グロリオサなどの花のほか、中国ではアセビなどの切り枝も人気がある。

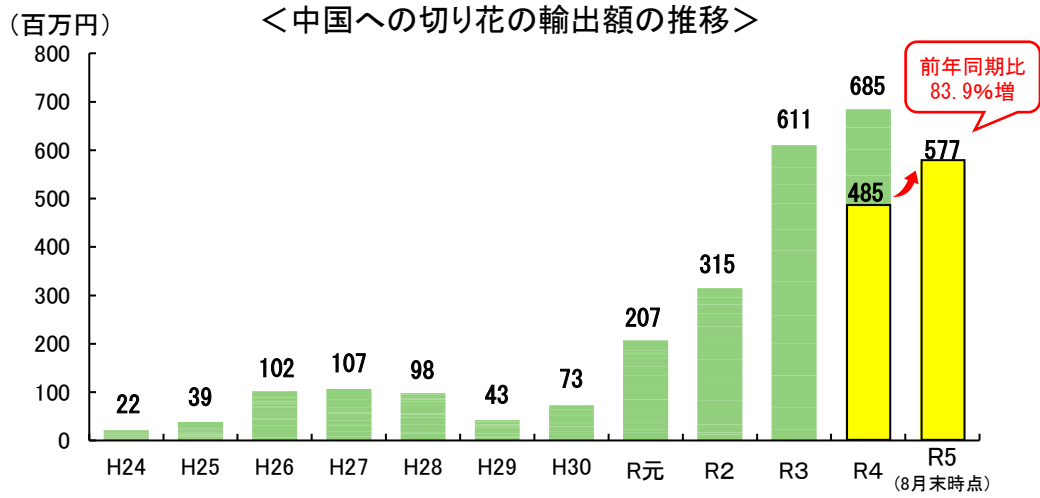
＜切り花の輸出額の推移＞



＜切り花の輸出額(国・地域別)の推移(令和元年・令和4年)＞



＜中国への切り花の輸出額の推移＞



＜切り花の輸出品目の例＞



資料:財務省「貿易統計」

4. 花きの輸入・輸出

(2) 花きの輸出(花きの輸出戦略)

- 「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」においては切り花を輸出重点品目に位置付け、令和7年までに輸出額を18.8億円とする目標を設定し、輸出対象国ごとの課題対応や輸出産地の育成等を推進。
- 切り花など花きの輸出拡大に向けて、生産から販売に至る関係者で構成される「全国花き輸出拡大協議会」がオールジャパンでの日本産花きの海外等でのPR活動を実施。

〈切り花の輸出額目標と実績〉

2019(R元)年 (実績)	2020(R2)年 (実績)	2021(R3)年 (実績)	2022(R4)年 (実績)	➡	2025(R7)年 目標
8.8億円	8.1億円	13.4億円	15.1億円		18.8億円

〈輸出先国別課題等への対応〉

国名	2019年実績	2025年目標	国別のニーズ・規制に対応するための課題・方策
米国	2.7億円	5.9億円	・米国で需要が高く、冬から春先に出荷されるスイートピーについて、生産性・品質の維持・向上や出荷時期の長期化等の取組を推進
中国	2.1億円	4.8億円	・中国で需要の高い切り枝について、山採りから平地等での栽培への転換を推進
香港	1.1億円	2.2億円	・外出を控えがちな消費者に多様な購入手段を提供するための日本産食品等のECサイトで花きを販売する取組等を推進
EU	0.4億円	1.8億円	・オランダに所在する世界最大の花市場における環境認証の要求に対応するため、輸出産地における認証取得のための取組を推進
その他	2.5億円	4.1億円	・ベトナム、シンガポール等の東南アジアや、ロシア、豪州等において、人気がある、リンドウ、ダリア、トルコギキョウ、シャクヤク等について、長期低温保管倉庫の整備等により需要期に合わせた出荷を推進

＜参考＞全国花き輸出拡大協議会の概要

- 全国花き輸出拡大協議会は、生産や流通・販売等の花き業界関係者で構成する任意団体として平成19年9月に設立。
- 令和4年10月に一般社団法人に移行するとともに、同年12月には輸出促進法に基づく認定農林水産物・食品輸出促進団体に認定。
- 同協議会には、生産団体や都道府県、輸出事業者など、令和5年10月時点で97の会員が加入。

（一般社団法人）全国花き輸出拡大協議会



設立：平成19年9月（法人設立：令和4年10月28日）

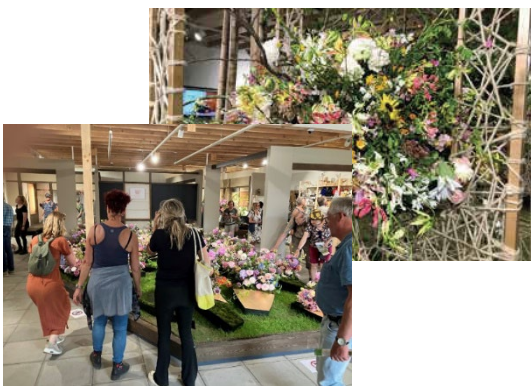
代表者：会長 宍倉孝行

会員数：97（令和5年10月時点）

＜令和5年度の取組計画＞

- ① 中東での販路拡大に向け、ドーハ国際園芸博覧会での花き展示等のPR活動や市場調査の実施
- ② 米国や欧州、アジア等での更なる輸出拡大に向け、花きの国際見本市等での花き展示や商談会等の販促活動
- ③ 新規輸出先国の開拓に向け、北欧やブルネイでの切り花等の輸出可能性調査等の実施といった取組を展開し、切り花等の花きの輸出額の増加、新規輸出先国の開拓につなげていく。

輸出拡大のためのこれまでの取組事例



オランダアルメーレ国際園芸博覧会での花き展示（R4年）



中国など海外バイヤーとのオンライン商談会（R2年度）



JFOODOと連携した切り花の海外市場調査（令和3年）



海外バイヤーの国内産地への招聘（R元年）

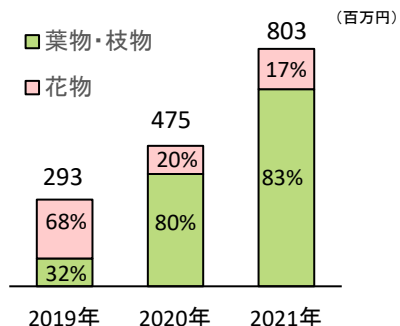
4. 花きの輸入・輸出

(2) 花きの輸出(各国の状況)

中国向け切花

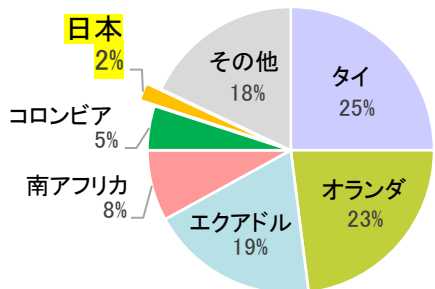
- 中国では、これまで日本から輸入している切花の主力は花物であったが、近年、葉物・枝物の占める割合が高くなっており、2019年から2021年にかけて葉物・枝物の輸入額は、7倍に増加。

<日本から輸入される切花の輸入額>

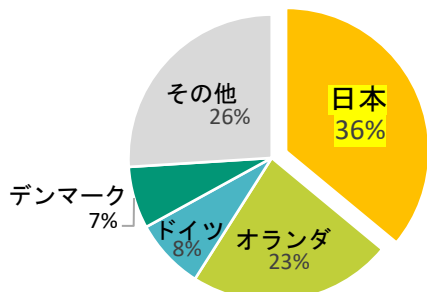


- 花物では「グロリオサ」、葉物・枝物では「アセビ」、「ドウダンツツジ」が輸入のメジャー品種。特に、「ドウダンツツジ」は、日本からの輸入切花の中で最高値で取引されている。
- 中国の切花市場では、日本産花物よりも安価なタイ、オランダからの輸入が多い。
- 一方で、葉物・枝物については、日本産「アセビ」や「ドウダンツツジ」の希少性や品質の良さから、日本が一定のシェアを誇っている。

<2020年の中国における花物の原産地別輸入額割合>



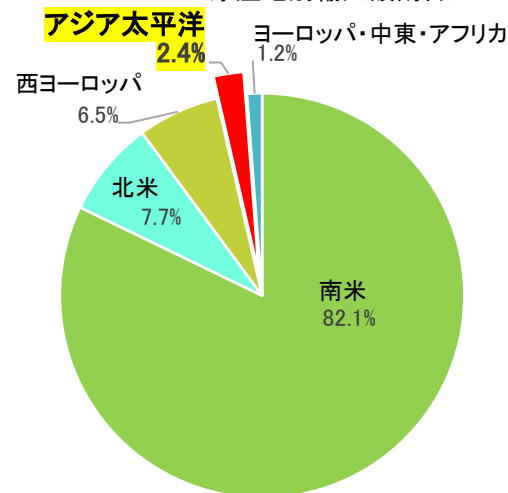
<2020年の中国における葉物・枝物の原産地別輸入額割合>



米国向け切花

- 現在、米国で販売されている切花の約82%が輸入(2021年)されており、そのうち82%が南米から輸入している。日本を含むアジア太平洋地域からの輸入は3%未満。

<2021年の米国の切花における原産地別輸入額割合>

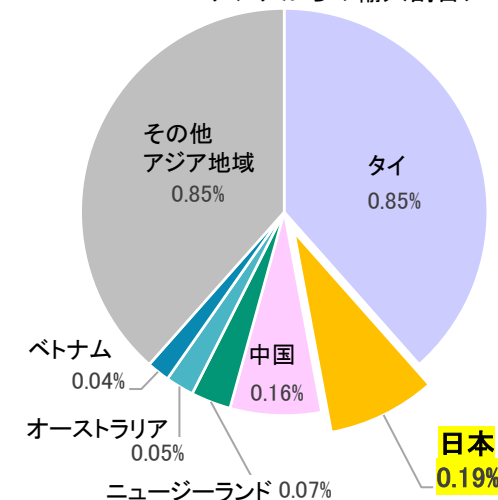


- 南米82%の内訳は、コロンビア60%、エクアドル21%。

- 南米産の花きは全ての品種で価格競争力が強く、日本産を含む他産地は弱い状況。

<2021年の米国の切花におけるアジアからの輸入割合>

- アジアから輸入される切花は、米国市場の2.4%。アジアの中では、米国内で人気のあるランを生産しているタイが1位となっている。



- 米国で人気のある切花は「バラ」で、米国の切花市場で取り扱う切花の41%を占めている。その後、菊・ガーベラ、カーネーションと続く。

4. 花きの輸入・輸出

(2) 花きの輸出(今後必要とされる取組)

産地間連携により日本産花きと花文化を世界へ輸出！

必要な取組

- 海外の市場実態等情報収集
- 花文化と併せて日本産花きの情報発信
- 長距離輸送に耐えうる品質管理技術の向上
- 海外からのバイヤーの招聘

今後も海外市場調査を通じ、
新たな販路を開拓！



<参考>花き輸出の事例

あしろ安代りんどう（新岩手農業協同組合はちまんたい八幡平花卉生産部会）

～オリジナル品種による地域一体となった世界に通用するブランド産地作り～

<経営の現状>

- ・ 全国のりんどう栽培面積の約4分の1、出荷数量の約3割を占める産地。
- ・ 部会員数170戸、栽培面積110ha、出荷数量 切り花:2,469万本、鉢花:14万鉢、販売額は平成17年以降、10年連続して10億円以上を達成。

<特徴的な取組>

① 生産者と行政が一体となった地域オリジナル品種の育成

切り花30品種、鉢物9品種が実用化されており、品種の開発に当たっては、部会員全員を社員とする（一社）安代りんどう開発が八幡平市花き研究センターと共同研究契約を締結し、有望系統の特性検定や親株育成のための試験圃場の設置・管理を担うとともに、市と専用利用者権の許諾契約を結び、部会員だけがオリジナル品種を利用できるようにしている。また、生産者が販売額の2%を研究協力費として拠出し、安定した組織運営と生産者の意見を踏まえた品種開発が行われる仕組みを構築。



ニュージーランドとの
合同育種により開発された
「赤色りんどう」

② 生産者の強固な結束による産地ブランドの確立

系統出荷率90%以上の共販体制による安定した出荷ロットと、全量共同育苗、全ほ場一斉巡回指導、厳しい自主検査による高品質なオリジナル品種の生産、鮮度保持対策の徹底や出荷調整作業の機械化等のコスト削減努力により、「安代りんどう」というブランドを確立し、市場での有利販売につなげている。

③ 切り花輸出と海外生産、知財輸出

平成14年からオランダへの輸出を開始し、近年は香港、シンガポール、北米など新たな販路を開拓。鉢花品種では、海外と栽培許諾契約を締結し、知的財産の輸出にも取り組んでいる。

ニュージーランド、チリと栽培契約を締結し、海外生産を実施。季節が反対の南半球での生産により周年供給が可能。

※平成27年度農林水産祭天皇杯受賞

5. 国際園芸博覧会

(1) 花きの国際的評価(国際園芸博覧会への日本政府出展で「大賞」受賞)

- 2022年4月14日から10月9日までオランダ・アルマーレで開催された「アルマーレ国際園芸博覧会」において、日本政府(農林水産省、国土交通省)は「SATOYAMA Farm Garden(里山の農家の庭)」をテーマに、花き・園芸及び造園業界等の関係者の協力を得て、里山の農家をイメージした茅葺屋根の展示館と日本庭園の政府出展を実施。
- 日本政府出展は、屋内出展(日本展示館)と屋外出展(日本庭園)を合わせた出展全体で、公式参加者の中で1カ国にだけ与えられる「国際園芸家協会賞」を受賞するとともに、屋内出展で「金賞」を受賞。

<アルマーレ国際園芸博覧会の概要>

名称: EXPO 2022 FLORIADE (フロリアード2022)
テーマ: Growing Green Cities (成長する緑の都市)
会期: 2022年4月14日~2022年10月9日
会場規模: 60ha
来場者数: 約69万人
(うち、日本館入場者数: 約30万人)

<日本政府出展の様子>



日本国出展外観

農水省が屋内展示、
国交省が屋外展示を担当。

日本展示館(屋内出展)では、
「里山」の風景と日本の優れた花き・
花き文化を一体的に展示。

○受賞結果

屋内・屋外出展全体: 「国際園芸家協会賞」
屋内展示: 「金賞」



国際園芸家協会賞

金賞(屋内出展)



日本展示館屋内展示のようす

5. 国際園芸博覧会

(1) 花きの国際的評価(国際園芸博覧会における各種コンテスト受賞結果)

- 園芸博覧会で開催されるコンペティション(品種コンテスト)は、国際的に栄誉ある賞として国内外の園芸業界関係者からも高い注目を集めている。
- アルメーレ国際園芸博覧会においては、日本からの出品が各種コンテストで賞を受賞。
- 多様で高品質な日本産花きの情報を発信することで輸出拡大、造園緑化技術の海外展開及びインバウンドの促進等を期待。

<アルメーレ国際園芸博覧会>

コンテスト名	賞	品目	品種
球根類	金	チューリップ	乙女のドレス
	銀	アリウム	踊る丹頂
	銅	チューリップ	黄つるぎ
その他の春の花	金	ラナンキュラス	綿帽子
	銀	フランネル フラワー	ファンシー マリエ
	銅	アスチルベ	ライトブルー
エキゾチックな花	金	グロリオサ	ZEN
その他秋の花	銀	ボンベイケイトウ	アスカセレクト ラビリエンズ

コンテスト名	品目	品種
Floriade Excellence Award 2022	ユリ	みもり

コンテスト名	品目	品種
Consumer test (秋の花咲く室内の植物)	ルッコリア	ココ

○受賞した花き(金賞・特別賞)

【金賞】 球根類



富山県
チューリップ(乙女のドレス)

【金賞】 その他春の花



(株)フラワースピリット
ラナンキュラス(綿帽子)

【金賞】 エキゾチックな花



アルメーレ国際園芸博覧会出展愛知実行委員会
(JA愛知みなみ 藤井隆志)
グロリオサ(ZEN)

【Floriade Excellence Award 2022】



上田裕介(高知県)
ユリ(みもり)

5. 国際園芸博覧会

(2) 今後の国際園芸博覧会への参加・開催について

- 北京(2019年)、アルメーレ(2022年)に引き続き、カタール・ドーハにおいて開催中の国際園芸博覧会にも政府出展する。
- また、2027年(令和9年)に横浜市においてA1(最上位)クラス(※)の国際園芸博覧会(我が国では1990年「大阪花の万博」に次いで2回目)の開催を予定。

ドーハ国際園芸博覧会の概要

- ・名 称: EXPO 2023 DOHA
- ・テ ー マ: Green Desert, Better Environment
(砂漠の緑化、よりよい環境)
- ・開催期間: 2023年10月～2024年3月
- ・会場規模: 170ha(国際エリア70ha,ファミリー・文化エリア各50ha)
- ・参加者数: 300万人
(アフリカ・中東地域における最初の国際園芸博覧会)



BIEホームページより
<https://www.bieparis.org/site/en/2023-doha>

横浜国際園芸博覧会の概要

- ・名 称: 2027年国際園芸博覧会
- ・公式略称: GREEN×EXPO 2027
- ・テ ー マ: 幸せを創る明日の風景
～Scenery of The Future for Happiness～
- ・開催期間: 2027年3月～9月
- ・会場規模: 約100ha
- ・参加者数: 1,500万人
(ICT活用等の多様な参加形態を含む)

<公式ロゴマーク>



<会場イメージ>



様々なテーマ性を持つ「village」を展開し、花や緑、自然と人とのつながりがもたらす未来の風景を表現

<開催場所位置図>



※ 国際園芸博覧会には最上位のA1の他、B、C、Dの計4クラスがある。A1は国際園芸博覧会条約に基づく認定を得て国際博覧会として開催。

5. 国際園芸博覧会

(3) 2027年国際園芸博覧会の概要

名 称：2027年国際園芸博覧会
(英語)International Horticultural Expo 2027,
Yokohama, Japan

開催場所：神奈川県横浜市(旧上瀬谷通信施設の一部)

開催期間：2027年3月19日～9月26日(192日間)

参加者数：1,500万人

開催者：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

テ ー マ：幸せを創る明日の風景

Scenery of the Future for Happiness



略称：

GREEN×EXPO 2027

- 花やみどりをベースにしつつ、食や農、環境などにテーマを広げた博覧会を目指す
- 自然・動植物の活用による社会課題の解決策を世界と共有する (SDGsの達成やGX(グリーントランスフォーメーション)の実現)



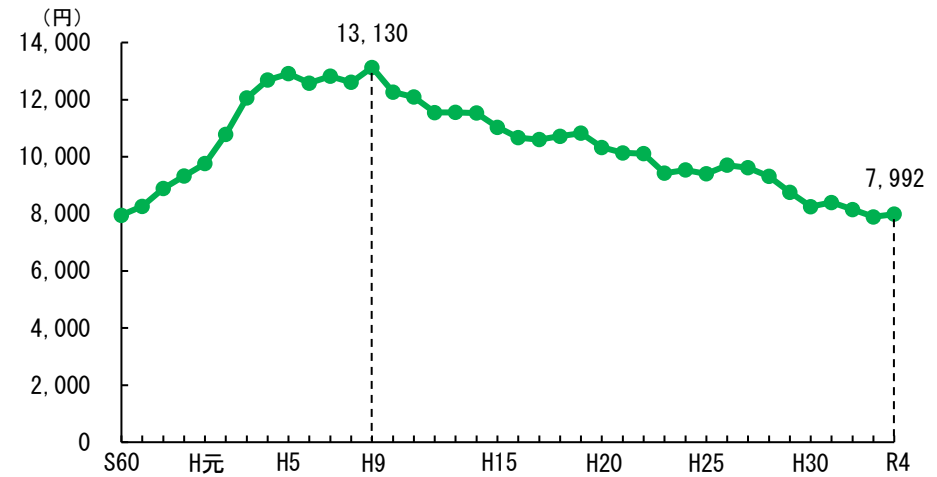
6. 花きの消費

(1) 花きの消費の現状

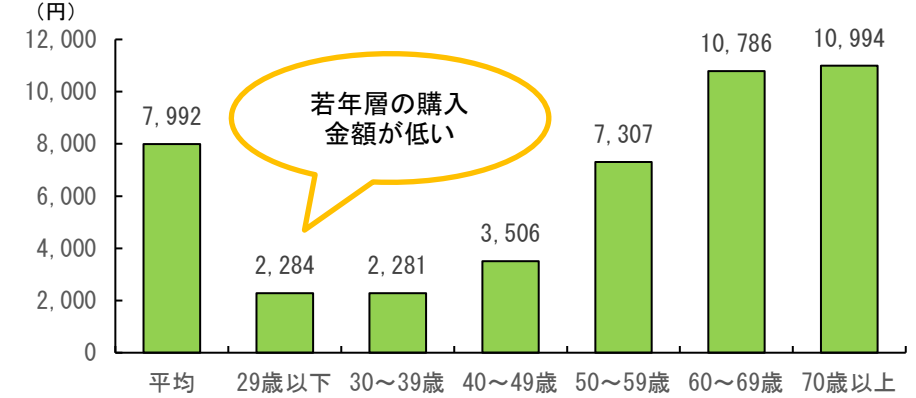
- 切り花の購入金額は長期的に見て減少。世帯主の年齢別で見ると、若年層ほど購入金額が低い。
- 花き取扱業の事業者のうち、花き専門小売業は事業者数で6割、販売額で7割を占める。

<切り花1世帯あたり購入額>

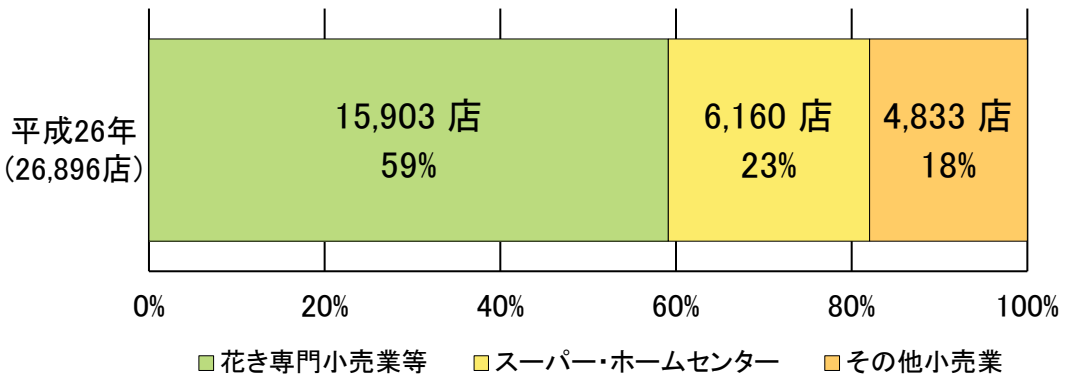
・年間購入額の推移



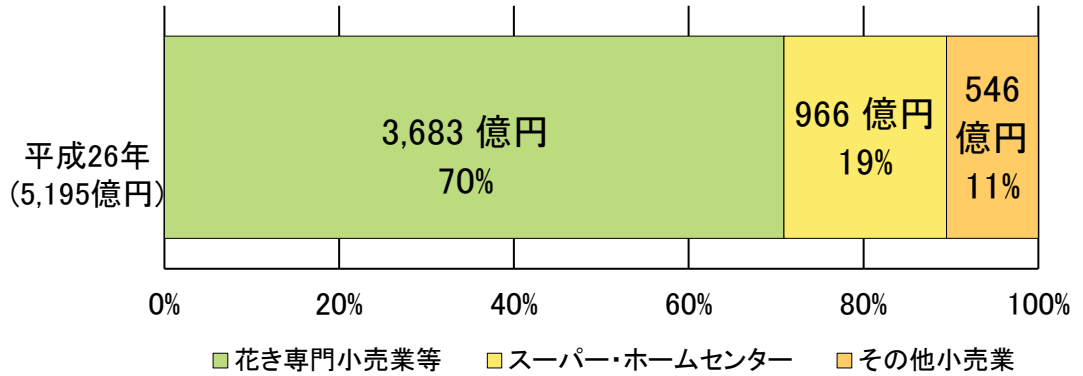
・世帯主年齢別年間購入額(令和4年)



<花き等取扱業の事業者数>



<花き等取扱業の販売額>



資料：総務省統計局「家計調査年報」二人以上の全世帯
 ※ 平成20年以降の金額は、「(農林漁家を含む)二人以上の世帯」の金額。それ以外は「農林漁家を除く二人以上の世帯」の金額となっている。

資料：経済産業省「商業統計」
 注1：花き専門小売業等は、「花き等専門小売業」と「花き等中心小売業(取扱商品の50%以上が住関連商品(花、植木含む))」の数値の合計。
 注2：スーパー・ホームセンターは、「専門スーパー」の数値。

6. 花きの消費

(2) 花きの需要拡大への取組

- 花きの文化の振興を図るためには、
 - 公共施設やまちづくり、社会福祉施設等の花きの効用が発揮できる施設等における花きの活用
 - 児童、生徒等に対する花きを活用した教育(花育)や地域における花きを活用したイベント等の推進
 - 日常生活における花きの活用の促進、花きに関する伝統の継承、花きの新たな文化の創出等に取り組んでいくことが必要。

公共施設やまちづくりにおける花きの活用

- オフィス等の室内緑化
- 駅や空港を緑化
- 花とみどりのまちづくり



教育及び地域における花きの活用

- 地域における花育活動を推進
- 各県フラワーフェスティバルの開催



花きの効用の普及

- 社会福祉施設等における癒やし効果の活用



花きに関する伝統の継承



花きの新たな文化の創出

Flower Biz



Flower Friday

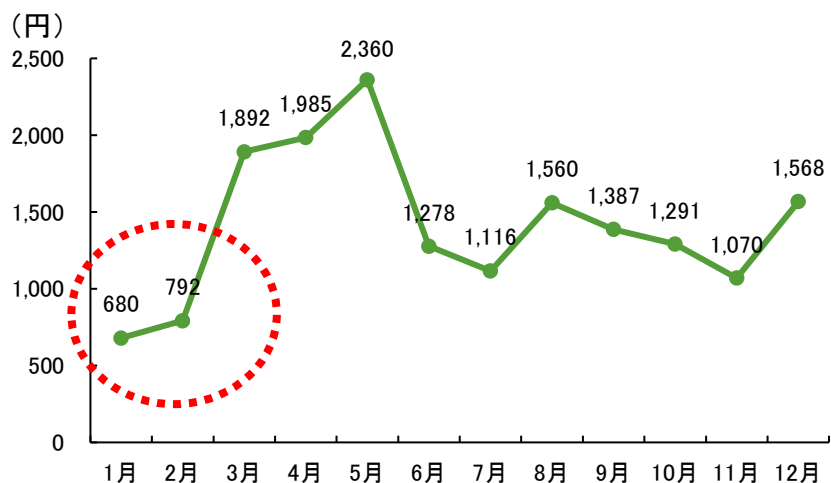


6. 花きの消費

(3) 花きの需要創出に向けた取組 ～花き業界における取組①～

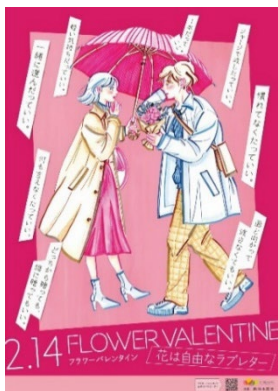
- フラワーバレンタインや「Flower Biz」、「Flower Friday」、「WEEKEND FLOWER」などの取組により新しい需要を創出。
- フラワーバレンタインの取組により、2020年のバレンタインデーの男性の花購入率は7年前(2013年)の6倍に増加(花の国日本協議会「フラワーバレンタイン2021年度活動報告書」)。

<切り花、園芸用植物・園芸用品への支出金額(令和4年)>



資料:総務省「家計調査」

月毎の支出金額が少ない1～2月に新しい需要を創出するため、2011年よりフラワーバレンタイン等の取組を実施



くらしの中に花を取り入れましょう!

月	主なイベント
1月	愛妻の日(1/31)
2月	フラワーバレンタイン(2/14)
3月	国際女性デー(3/8) ホワイトデー(3/14)
4月	
5月	母の日(第2日曜日) 母の月
6月	父の日(第3日曜日)
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	いい夫婦の日(11/22)
12月	

Flower Friday
きっかけに花を。

L I F E 生活の花
金曜日の花贈り・花飾り

Flower Biz

WORK
～オフィスの花～
月曜日のオフィスに花を

WEEKEND FLOWER



「5月は母の月」、
「6月の第3日曜日は父の日。」
をキャッチフレーズとして、
お父さん、お母さんに
花やグリーンを贈る取組を推進

6. 花きの消費

(3) 花きの需要創出に向けた取組 ～花き業界における取組②～

- (一社)花の国日本協議会は、国連が制定している3月8日の「国際女性デー」を日本の新たな文化として定着させるべく、2017年より『国際女性デー HAPPY WOMAN FESTA』として、プロモーション活動を開始。
- コロナをきっかけに、定額で一定期間・定期的にお花を購入することができるサービス「花のサブスクリプション」市場は急速に拡大。実店舗で花を受け取るサブスクを展開する花店は集客アップにつながっている。

国際女性デー(3/8)

・イタリアの風習から、国際女性デーの象徴的な存在である「ミモザ」の花に代表される黄色い花を販売することで、まだまだ日本国内では認知が低い「国際女性デー」の認知拡大、啓発を図る取組み。



一般社団法人花の国日本協議会HPより

花のサブスクリプション

- ・コロナを契機に、花のサブスクの利用者が急増。サブスクをきっかけに集客アップにつながる、従来花を飾っていなかった層にも花飾りが浸透するといった効果が実感されており、花きの消費拡大に貢献。
- ・日本初の花の定期便サービス「bloomee(ブルーミー)」を運営するユーザーライク株式会社は、長さ・曲がりに難がある花の活用や、需要期に依存しない形での安定取引により、フラワーロスの削減に貢献したとして、2022年、日本スタートアップ大賞のうち農業スタートアップ賞を受賞。



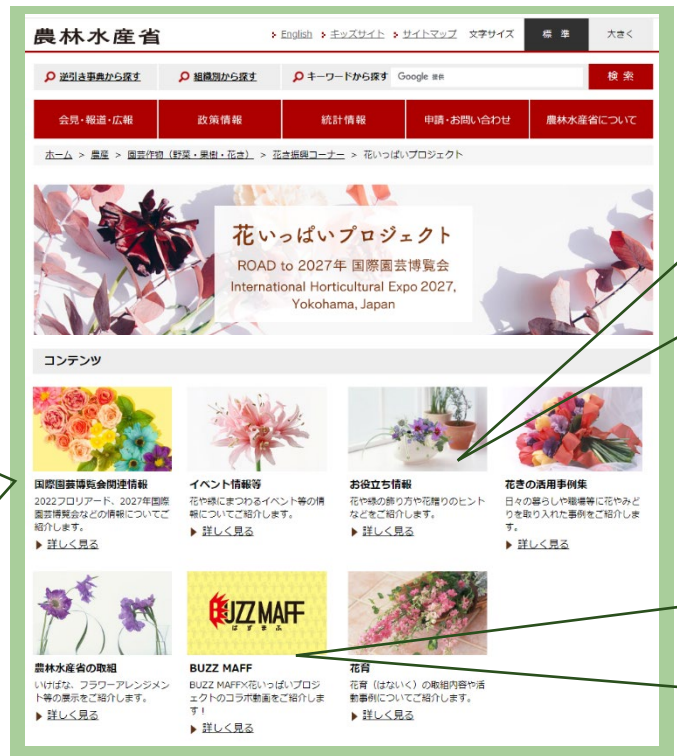
ユーザーライク株式会社HPより

6. 花きの消費

(3) 花きの需要創出に向けた取組 ～農林水産省における取組～

- 農林水産省は、新型コロナウイルスの影響で需要が減少している花きの消費拡大を図るため、令和2年3月から家庭や職場に花を飾って楽しむ「花いっぱいプロジェクト」を実施。
- 令和4年1月から、「花いっぱいプロジェクト ROAD to 2027年 国際園芸博覧会 International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan」として取組や特設サイトをリニューアル。
- 花きの暮らしへの取り入れ方等を紹介したお役立ち情報や、2027年(令和9年)に横浜市で開催予定の国際園芸博覧会の開催に向けた機運を高める活動等の特設サイトや農林水産省公式YouTubeチャンネル「BUZZ MAFF」を通じて発信。

<特設サイト>



<国際園芸博覧会関連情報>



2027年国際園芸博覧会 公式ロゴマーク
(公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会)

<お役立ち情報>



花のABC



「#花のABC-はじめて花屋」(日本花き振興協議会)

<BUZZ MAFF>



農林水産省公式YouTubeチャンネルBUZZ MAFF「花いっぱいプロジェクトチーム」

6. 花きの消費

(4) 花きの効用

花と緑のちから

★ストレス軽減効果

花や観葉植物を飾ることで心と体をリラックス

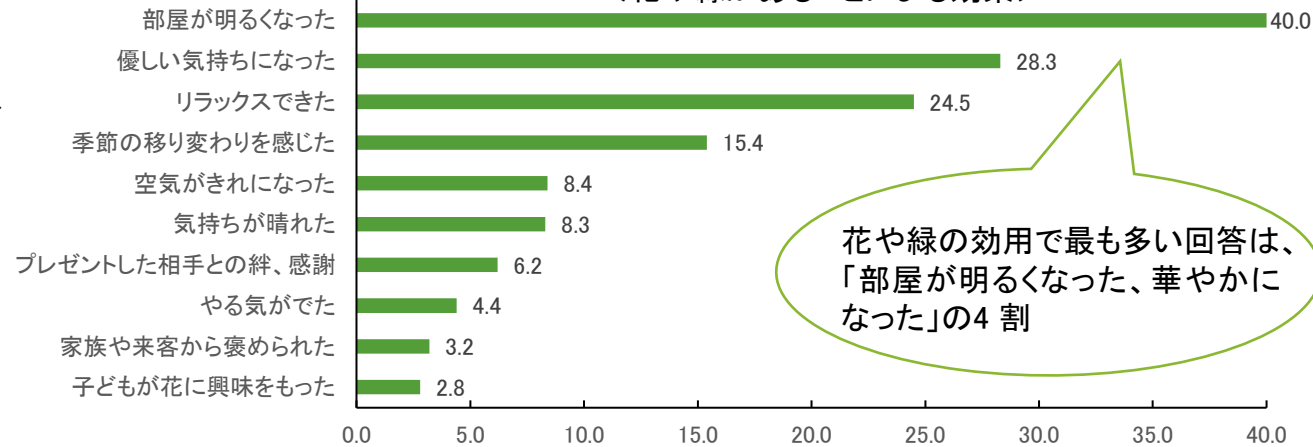
★認知機能の改善効果

フラワーアレンジ活動を通して、視空間認知能力や記憶力の向上効果

★社会性向上効果

人との会話が増え、コミュニケーションが増加

＜花や緑があることによる効果＞



花や緑の効用で最も多い回答は、「部屋が明るくなった、華やかになった」の4割

資料: 令和2年度花きの新需要開拓につながるビジネスモデル事業化可能性調査委託事業 調査報告書

Biophilia(バイオフィリア)

ハーバード大学のウイルソン教授らによって提唱された「人は生まれつき自然や動物、植物との結びつきを好む(求める)」という考え方。「バイオ」は生命、「フィリア」は愛情の意味。

コロナ禍では、今まで植物と無縁だった人の中にも、家に花を飾ったり、植物を育てる人が増えたように、社会的規模で人に大きくストレスがかかるときにバイオフィリアが表れ、ストレス軽減に寄与したと考えられている。

＜植物の健康増進効果＞

- ❁ CO₂やO₃(オゾン)の吸収とO₂の供給
- ❁ 室内の温度・湿度の調整(夏は涼しく、冬は暖かく)
- ❁ 気分転換、目や肩の緊張緩和、ストレス回復など心の癒し
- ❁ 血圧・血糖値低下、睡眠促進、免疫力向上といった健康増進
- ❁ 仕事の能率や生産性の向上
- ❁ ガーデニングなどの植物の手入れに伴う運動機会の創出



資料: 全国鉢物類振興プロジェクト協議会発行「あなたはまだ知らないすごい植物のちから」「こんなときこそすごい植物の癒しの力を」

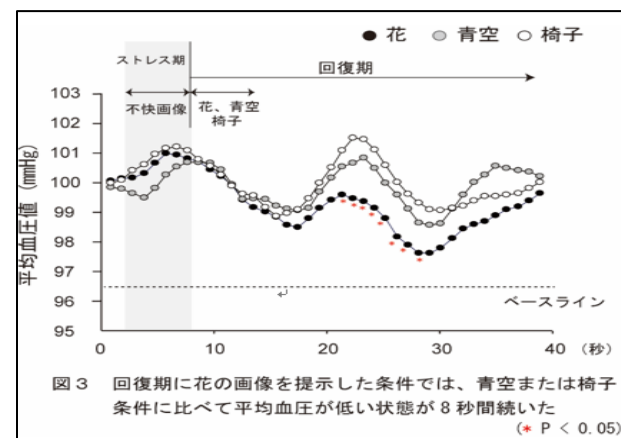
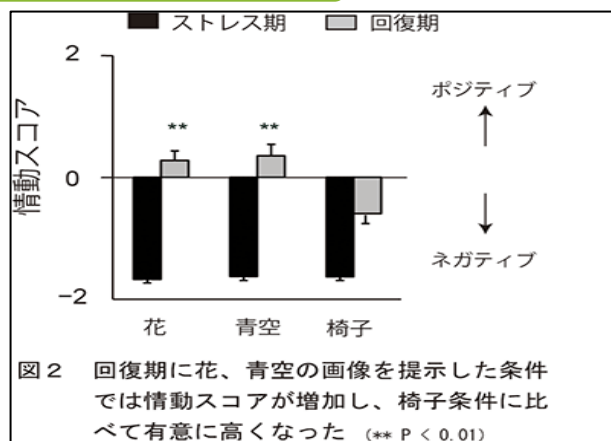
6. 花きの消費

(4) 花きの効用

○ 花の鑑賞が、脳の活動に影響を与え、心理的、生理的に生じたストレス反応を緩和。

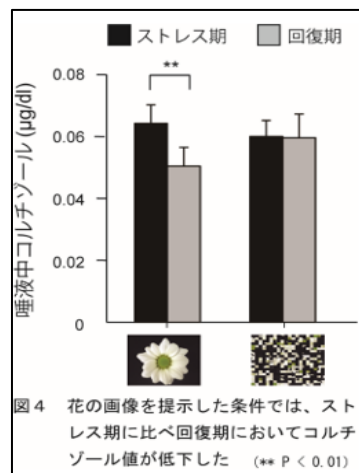
花の画像は青空や椅子の画像よりもストレス軽減に有効である

実験参加者35名(平均年齢24.4歳)を対象に、ストレス期に不快画像(例:事故画像、ヘビ、虫など)を6秒間提示した後、花、青空(自然で心地よい)または椅子(人工的で中立的)の画像を6秒間提示して26秒間安静にする(回復期)試験を各10回ずつ、計30回繰り返して血圧の変化を記録。

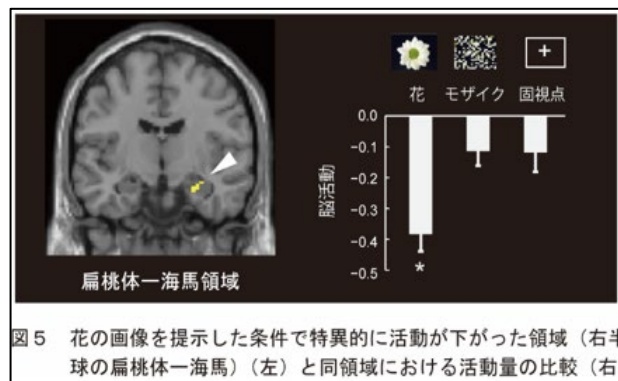


花の画像はストレスホルモン(コルチゾール)を下げる

実験参加者32名(平均年齢21.6歳)に対して、不快画像を4分間提示(ストレス期)した後、花の画像もしくは花のモザイク画像を8分間提示し(回復期)、唾液中コルチゾール値を比較。



花の画像は不快な記憶の想起やネガティブな情動の生起を抑制する



実験参加者17名(平均年齢25.5歳)を対象に、不快画像の後に花または花以外の画像(花のモザイク、固視点)を見ている時の脳活動をfMRIによって計測したところ、花条件では花以外の条件に比べて右半球の扁桃体から海馬に至る領域で活動の低下を認めた。

6. 花きの消費

(4) 花きの効用

- 花きの効用を活用するため、病院内へ緑化空間を設けたり、社会福祉施設での活動として取り入れているところもあり、患者からの評判も上々。

病院における花きを活用した取組

- <効果>
- ・ストレス軽減、リラックス効果、楽しみ
 - ・入院者同士のコミュニケーションのきっかけ
 - ・病院の雰囲気改善、室内環境の改善



院内の120箇所の花を
装飾
週1回の「お花クラブ」
の開催



エントランスに、4
階まで吹き抜けの
緑化空間を設置

社会福祉施設における花きを活用した取組

- <効果>
- ・ストレス軽減、リラックス効果、楽しみ
 - ・入居者同士のコミュニケーションのきっかけ
 - ・認知機能の改善



寄せ植え体験



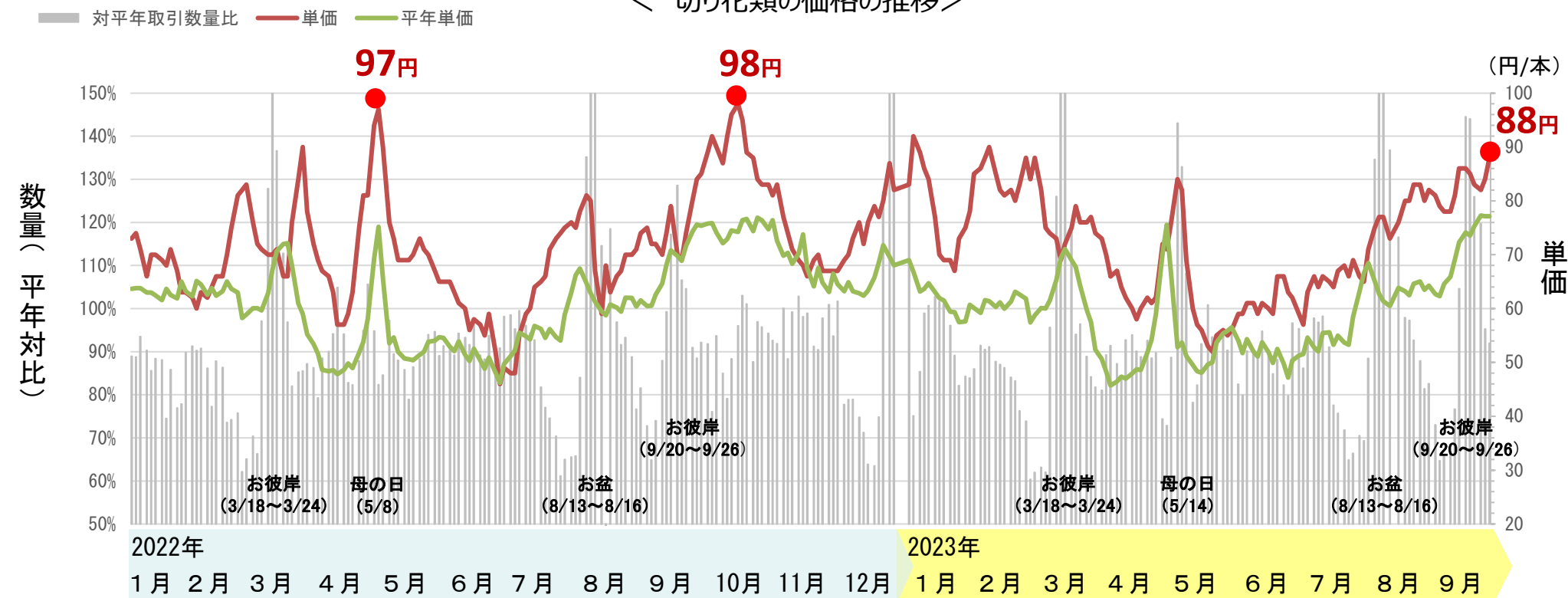
アレンジメント
制作

7. 価格動向について

(1) 切り花の市場取扱数量・金額の動向

- 新型コロナウイルス感染拡大以降、葬儀や各種イベントの縮小等による需要減少で、切り花価格は平年よりも低い水準で推移したが、現在は、経済活動の再開に伴い、回復傾向で推移。
- 令和5年は、各産地で猛暑や大雨による生育の遅れがあり、7月から取引量が平年に比べ10%ほど減少し、品薄感から単価は平年に比べ15%ほど高く推移。

< 切り花類の価格の推移 >



資料：日本農業新聞調べ(日農INDEX:各地区大手7卸のデータ)。平年単価及び数量は、過去5年間(2017年~2021年)の平均値

【参考資料】

1	花きの振興に関する法律	44
2	花き関係予算	47
	(1)花き支援対策	47
	(2)強い農業づくり総合支援交付金	48
	(3)産地生産基盤パワーアップ事業	49
3	次世代施設園芸の取組	50
	(1)次世代施設園芸拠点の整備	50
	(2)次世代施設園芸拠点	51
	(3)次世代施設園芸の取組拡大に向けた支援	52
4	スマート農業実証プロジェクト	54
5	都道府県別花き産出額	56

1. 目的

花き産業の健全な発展と心豊かな国民生活の実現

2. 定義

「花き」: 観賞の用に供される植物

「花き産業」: 花きの生産、流通、販売又は新品種の育成の事業

3. 基本方針等

- 農林水産大臣は、花き産業及び花き文化の振興に関する基本方針を策定
- 都道府県は、花き産業及び花き文化の振興に関する計画を策定
- 国、地方公共団体、事業者、研究機関等の連携の強化

4. 花き産業に対する施策

- 生産者の経営の安定(6条)
- 生産性及び品質の向上の促進(7条)
- 加工及び流通の高度化(8条)
- 鮮度保持の重要性への留意(9条)
- 輸出の促進(10条)
- 種苗法の特例(13条)
- 研究開発の推進(15条)

5. 花き文化に対する施策

- 公共施設における花きの活用の推進等(16条1項)
- いわゆる「花育」の推進(16条2項)
- 日常生活における花きの活用の推進等(16条3項)

6. その他の施策

- 博覧会の開催等(17条)
- 花き産業及び花き文化の振興に寄与した者の顕彰(18条)
- 振興計画の円滑な実施に向けた国の援助(19条)
- 花き活用推進会議の設置(20条)

【参考】花きの振興に関する法律(平成26年法律第102号)について(②種苗法の特例(法第13条)の概要)

- 農林水産大臣の認定を受けた研究開発事業計画の成果として育成された品種に種苗法の特例を適用。
- 具体的には、耐病性や高温耐性、日持ち性を有する等、国際競争力の強化に資する新品種の育成に対し、出願料及び登録料(1～6年目)を4分の3軽減。

＜種苗法の特例措置＞

区分	通常	特例措置
出願料	47,200円	11,800円
登録料		
第1～3年	6,000円/年	1,500円/年
第4～6年	9,000円/年	2,250円/年
第7～9年	18,000円/年	—
第10～30年	36,000円/年	—

研究開発事業計画の認定件数(令和5年10月末現在)
18件

種苗法特例の適用対象となる新品種の育成
(イメージ)



輸出の拡大

灰色かび病に対する抵抗性を持ち、夏場の高温・多湿化でも輸出可能となるスイートピーの新品種



国産シェアの奪還

高温耐性を持ち、夏場の需要期に合わせた安定供給が可能となるキクの新品種

＜施策の方向＞

＜国産花きの強みと課題＞

- ・平成29年の産出額が3,687億円と農業産出額の4%
- ・多様で高品質な国産花きは国際的にも高い評価
近年輸出は増加傾向(平成29年に138億円)

国際競争力の強化が緊要の課題

生産

- ・近年の国内市場における花き消費の伸び悩み、大量生産された安価な切り花の輸入の増加等に対応する観点から国際競争力の強化が緊要な課題

日持ちの良い花きに対する消費者ニーズへの対応

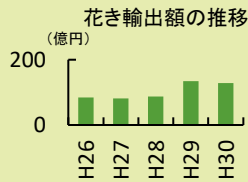
流通

- ・輸入花きからシェアを回復するには、国産花きの鮮度、日持ちの良さ等の強みを活かすためのコールドチェーンの整備等が必要

輸出は増加傾向

輸出

- ・国産花きは、国際的に高い評価を得ており、アジアや欧米向けを中心に輸出が増加傾向



世界に誇る豊かな花きの文化

文化

- ・花きの文化を振興することは、国民の心豊かな生活の実現に資する。



国内外の需要拡大

需要

- ・オリンピック・パラリンピック、国際園芸博覧会の成果を最大限に活かし、国内外の花きの需要を飛躍的に拡大

生産量その他の花き産業の振興の目標 (億円)

	H29実績	R12目標	R17目標
産出額	3,687	4,500	6,500
輸出額	138	200	450
輸入額	511	300(見込)	300(見込)

生産性・品質の向上と生産者の経営の安定

- ・暑熱、対策等による周年生産、次世代施設園芸の面的拡大、ロボット、AI・IoTを活用したスマート農業技術の導入等の推進
- ・自然災害等のリスクへの備えとして収入保険や園芸施設共済等の普及促進

暑熱対策

次世代施設園芸

スマート農業



研究開発の推進

- ・花きの新品種の育成や増殖技術の高度化、生産性・品質の向上等の研究開発を推進

加工及び流通の高度化

- ・加工に関する技術開発や卸売市場等におけるコールドチェーンの整備、流通経路の合理化等を推進

産地

- ・採花後の前処理(抗菌剤等で水揚げ)
- ・出荷前の温度管理(低温保管)等の徹底

市場

- ・配送施設、卸売場の低温化
- ・輸送時の温度管理(積載前のトラック庫内の冷却等)の徹底

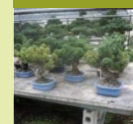
小売店

- ・市場から店舗まで搬送時の温度上昇の防止
- ・入荷時の適切な水揚げの実施、低温ショーケースの利用等

輸出の促進

- ・産地における輸出に対応した栽培体系の確立
- ・国際園芸博覧会への政府出展等を活用した海外需要の創出

輸出対応産地



輸出拠点



国際園芸博覧への出展



花きの文化の振興

- ・花きの文化の振興に向け、
 - ① 公共施設やまちづくりにおける花きの活用
 - ② 花育、日常生活における花きの活用等を推進

公共施設やまちづくりにおける活用



花きの需要の増進

- ・国際園芸博覧会等の開催、切り花の日持ちを保证する販売の確立
- ・SNSの活用、観光業界、インテリア業界等との連携による効果的な需要喚起

花いっぱいプロジェクト



花き産業の健全な発展と心豊かな国民生活の実現

<対策のポイント>

物流2024年問題に対応した**花き流通の効率化**、需要のある品目の安定供給を図るための**品目の転換や導入**、**病害虫被害の軽減**などの産地の課題解決に必要な**技術導入**を支援するとともに、花き需要の回復に向けて、**新たな需要開拓**、**花き利用の拡大**に向けたPR活動等の前向きな取組を支援します。

<事業目標>

花き産出額の増加（3,687億円 [平成29年] →4,500億円 [令和12年まで]）

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 花き流通の効率化の取組

2024年以降の輸送力不足に対応するため、標準規格の**パレット・台車等の導入**、**受発注データのデジタル化**、その他流通の効率化等に資する検討や実証試験の実施等を支援します。

流通の効率化



- パレット・台車等輸送基盤の標準化
- 受発注データ等のデジタル化
- 短茎など効率的な流通規格の導入
- 流通効率化に向けた調査、検討会開催 等

需要のある品目への転換等



- 需要拡大が見込まれる品目への転換
- 収益性向上が見込まれる品目への転換
- 増産要望のある品目の導入 等

2. 生産技術の高度化・産地体制の強化等の取組

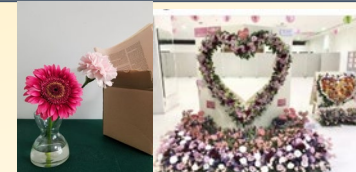
需要のある品目の安定供給や生産性の向上に向けて、**需要期に合わせた開花調整**、**効果的な病害虫防除技術**、**生産コストの低減**等に資する栽培技術の導入に必要な検討会の開催、**実証試験の実施**等を支援します。

生産体制の強化



- 効果的な病害虫防除技術
- 需要期に出荷するための開花調整技術
- 生産コスト低減や品質向上に資する栽培技術の導入 等

新たな需要開拓や消費拡大



- ホームユース等に適した利用スタイルの提案
- サブスク等の新たな販売方法の検討
- 消費拡大に資する情報提供、セミナー開催、園芸体験の実施 等

3. ホームユース需要等に対応した品目等の転換の取組

需要変化に対応し、需要のある品目・品種への転換等に**必要な転換先品目の需要調査**、**栽培実証**、**栽培マニュアルの作成**等を支援します。

4. 新たな需要開拓・消費拡大の取組

需要拡大が見込まれるホームユース向けに適した利用スタイルの提案、**需要喚起のためのPR活動**や**新規購買層の獲得**に向けた販路開拓、**花き利用の拡大**に資する**体験活動**等を支援します。

<事業の流れ>



強い農業づくり総合支援交付金

【令和6年度予算概算決定額 12,052 (12,052) 百万円】

<対策のポイント>

食料生産・供給の不安定化や労働力不足等、生産構造の急速な変化に対応するための**先駆的モデル**や**農業支援サービス事業者の育成等**を支援します。また、**産地の収益力強化**と**持続的な発展**及び**食品流通の合理化**のため、強い農業づくりに**必要な産地基幹施設、卸売市場施設の整備等**を支援します。

<事業目標>

- 加工・業務用野菜の出荷量（直接取引分）の拡大（98万t [平成29年] →145万t [令和12年まで]）
- 場内物流改善体制の構築に取り組んでいる卸売市場数（55市場 [令和6年度まで]）
- 化石燃料を使用しない園芸施設への完全移行 [2050年まで]

<事業の内容>

1. 食料・農業・農村基本法の見直しを踏まえた先駆的モデル等の育成

- 先駆的モデル支援タイプ**
食料・農業・農村基本法の見直しを踏まえた新しい農業のモデルを創出していくため、**安定的な生産・供給等を実現しようとする先駆的モデルの育成**を支援します。
- 農業支援サービス事業支援タイプ**
農業支援サービス事業の提供に必要な**農業用機械の導入**を支援します。

2. 地域の創意工夫による産地競争力の強化（産地基幹施設等支援タイプ）

- 産地収益力の強化、産地合理化の促進**
産地農業において中心的な役割を果たしている農業法人や農業者団体等による集出荷貯蔵施設や冷凍野菜の加工・貯蔵施設等の**産地の基幹施設の整備等**を支援します。また、産地の集出荷、処理加工体制の合理化に必要な**産地基幹施設等の再編等**を支援します。
- 重点政策の推進**
みどりの食料システム戦略、スマート農業、産地における**戦略的な人材育成**といった**重点政策の推進に必要な施設の整備等**を支援します。

3. 食品流通の合理化（卸売市場等支援タイプ）

品質・衛生管理の強化等を図る**卸売市場施設**、産地・消費地での**共同配送等**に必要な**ストックポイント等の整備**を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

【国直接採択】

モデル等の育成・提供	A 先駆的モデル支援タイプ ・助成対象：推進事業（農業用機械、実証等） 整備事業（農業用施設） ・補助率：定額、1/2以内 ・上限額：推進事業5,000万円 整備事業20億円	連携生産者 → 供給調整機能 → 連携産地 生産安定・効率化機能 → 拠点事業者 → 実需者ニーズ対応機能 【安定供給】
	B 農業支援サービス事業支援タイプ ・助成対象：農業用機械 ・補助率：1/2以内 ・上限額：1,500万円	産地のニーズに合わせた農業支援サービスを提供（農機シェアリング、データ分析等） 農業支援サービス事業者 → A産地 → B産地 → C産地

【都道府県向け交付金】

産地競争力の強化	C 産地基幹施設等支援タイプ ・助成対象：農業用の産地基幹施設 ・補助率：1/2以内等 ・上限額：20億円等	優先枠の設定 物流2024年問題への対応、集出荷・加工の効率化に向けた再編合理化、中山間地域の競争力強化、農畜産物の輸出拡大等に係る取組にポイントを加算することにより、積極的に支援 重点政策の推進【33億円】 2.①のメニューとは別枠で、みどりの食料システム戦略、スマート農業技術の導入、産地における戦略的な人材育成といった重点政策の推進に必要な施設を着実に整備
	D 卸売市場等支援タイプ ・助成対象：卸売市場施設 共同物流拠点施設 ・補助率：4/10以内等 ・上限額：20億円	食品流通の合理化

農産局総務課生産推進室 (03-3502-5945)
 農産局技術普及課 (03-6744-2221)
 新事業・食品産業部食品流通課 (03-6744-2059)

産地生産基盤パワーアップ事業

【令和5年度補正予算額 31,000百万円】

<対策のポイント>

収益力強化に計画的に取り組む産地に対し、**農業者等が行う高性能な機械・施設の導入や栽培体系の転換等**に対して総合的に支援します。また、輸出事業者等と農業者が協働で行う取組の促進等により**海外や加工・業務用等の新市場を安定的に獲得していくための拠点整備、需要の変化に対応する園芸作物等の先導的な取組、食料安全保障の確立に向けた国産農産物のシェア拡大に資する取組、全国産地の生産基盤の強化・継承、土づくりの展開等**を支援します。

<事業目標>

- 青果物、花き、茶の輸出額の拡大（農林水産物・食品の輸出額：2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）
- 品質向上や高付加価値化等による販売額の増加（10%以上〔事業実施年度の翌々年度まで〕）
- 産地における生産資源（ハウス・園地等）の維持・継承 等

<事業の内容>

<事業イメージ>

農業の国際競争力の強化

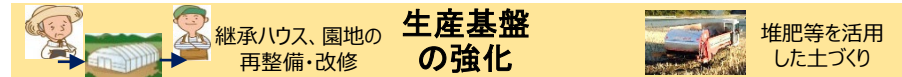
輸出等の新市場の獲得

産地の収益性の向上

新たな生産・供給体制



収益力強化への計画的な取組



【お問い合わせ先】

- (1①、2の事業) 農産局総務課生産推進室 (03-3502-5945)
- (1②③、3①の事業) 園芸作物課 (03-6744-2113)
- (1②の事業) 果樹・茶グループ (03-6744-2117)
- (1③の事業) 穀物課 (03-3502-5959)
- (3②の事業) 農業環境対策課 (03-3593-6495)

1. 新市場獲得対策

- ① 新市場対応に向けた拠点事業者の育成及び連携産地の対策強化**
新市場のロット・品質に対応できる**拠点事業者の育成に向けた貯蔵・加工・物流拠点施設等の整備**、拠点事業者と連携する**産地が行う生産・出荷体制の整備等**を支援します。
- ② 園芸作物等の先導的取組支援**
園芸作物等について、**需要の変化に対応した新品目・品種、新樹形の導入や栽培方法の転換、技術導入の実証等の競争力を強化し産地を先導する取組**を支援します。
- ③ 国産シェア拡大対策**
国産麦・大豆の**増産や安定供給に必要な農業機械の導入や集出荷貯蔵施設等の整備**、**国産加工・業務用野菜等のサプライチェーンの強靱化に向けた農業機械・技術等の導入、流通加工施設の整備、需要拡大に資する全国的な取組等**を支援します。

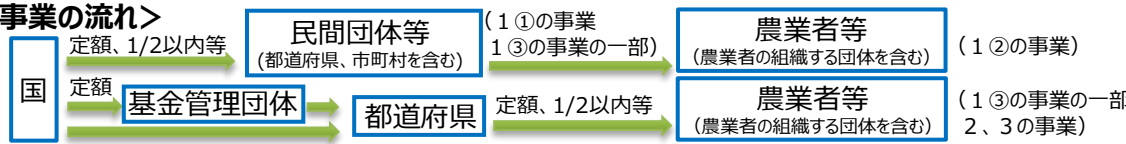
2. 収益性向上対策

収益力強化に計画的に取り組む産地に対し、**計画の実現に必要な農業機械の導入、集出荷施設の整備等**を総合的に支援します。また、**施設園芸産地において、燃油依存の経営から脱却し省エネ化を図るために必要なヒートポンプ等の導入等**を支援します。

3. 生産基盤強化対策

- ① 生産基盤の強化・継承**
農業用ハウスや果樹園・茶園等の**生産基盤を次世代に円滑に引き継ぐための再整備・改修、継承ニーズのマッチング等**を支援します。
- ② 全国的な土づくりの展開**
全国的な土づくりの展開を図るため、**堆肥や緑肥等を実証的に活用する取組**を支援します。

<事業の流れ>



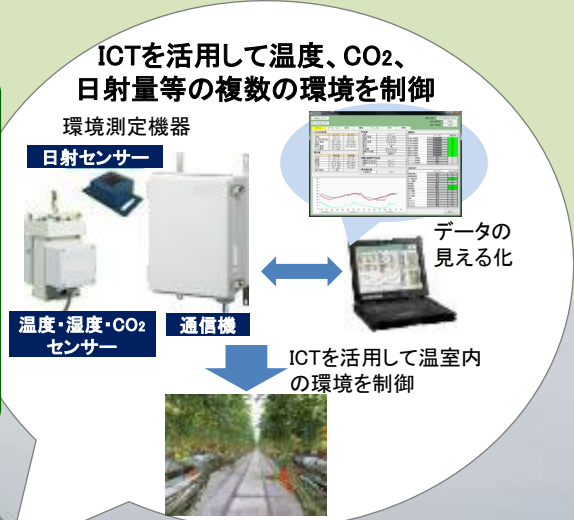
【参考】次世代施設園芸の取組

(1) 次世代施設園芸拠点の整備

オランダの施設園芸を参考に、①高度な環境制御の導入、②雇用を活用した規模拡大、③地域エネルギーの活用により日本の自然条件等に適した形で、我が国の施設園芸の課題を一挙に解決するトッパーモデル(次世代施設園芸)の確立を図る。

1. 高度な環境制御技術の導入による生産性向上

日本の気候に合わせて耐候性を高めた温室で、ICTを活用して複数の環境を組み合わせて制御することにより、周年・計画生産を実現し、収量を飛躍的に向上
 (例)大玉トマトの収量約30~40t/10aを実現(全国平均約10t/10a)



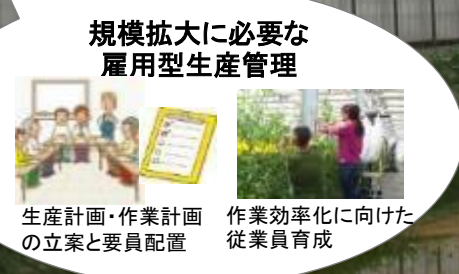
3. 地域エネルギーの活用による化石燃料依存からの脱却

施設園芸は経営費に占める燃料費の割合が高く、燃油価格の高騰は経営に多大な影響
 地域エネルギーを活用し化石燃料依存から脱却することにより経営を安定化



2. 雇用労働力を活用した大規模経営

適切な作業計画の策定・見直し、従業員の適正配置や作業の標準化等により、雇用労働力を活用した効率的な生産を実現し、経営規模を拡大



参考：日本とオランダの自然条件等の違い

	日本	オランダ
気温	夏は高温多湿	夏は冷涼
積雪	あり	ほとんどなし
強風	台風の襲来あり	ハリケーンの襲来なし
主要燃料	輸入に頼る重油	北海油田の天然ガス

【参考】次世代施設園芸の取組

(2) 次世代施設園芸拠点

- 南北に長い日本の自然条件等に適した次世代施設園芸を確立するため、**全国10箇所にモデル拠点を整備**。
- モデル拠点における環境・生育や作業計画等の**データを収集**してPDCAサイクルを回し、**10a当たり収量**や**化石燃料の削減率**、**従事者1人当たりの生産性を評価**し、次世代施設園芸の要素技術を検証。
- 我が国の施設園芸の課題解決と収益性向上に資する**エビデンスを蓄積**。

モデル拠点において収集するデータ

【日常の取組】

- ・ ハウス内の環境、作物の生育、燃料使用量等
- ・ 作業計画と実績

→ **課題の把握と改善 (PDCAサイクル)**

【ベンチマーク】

- ・ 10a当たりの収量
- ・ 化石燃料の削減率
- ・ 従事者1人当たりの収量

→ **経営収支の改善 (PDCAサイクル)**

5. 富山県(富山市)【2015年6月完成】

品目：高糖度トマト(2.9ha)
トルコギキョウ等花き(1.2ha)
目標単収：17.7t/10a(高糖度トマト)
12万本/10a(トルコギキョウ等花き)
地域エネルギー：廃棄物由来燃料

7. 兵庫県(加西市)【2015年8月完成】

品目：トマト(1.8ha)、ミニトマト(1.8ha)
目標単収：35t/10a(トマト)
20t/10a(ミニトマト)
地域エネルギー：木質バイオマス

10. 宮崎県(国富町)【2015年7月完成】

品目：ピーマン(2.3ha)、きゅうり(1.8ha)
目標単収：15t/10a(ピーマン)
25t/10a(きゅうり)
地域エネルギー：木質バイオマス

1. 北海道(苫小牧市)【2016年10月完成】

品目：イチゴ(4ha)
目標単収：7.5t/10a
地域エネルギー：木質バイオマス

3. 埼玉県(久喜市)【2017年1月完成】

品目：トマト(3.3ha)
目標単収：30t/10a
地域エネルギー：木質バイオマス

4. 静岡県(小山町)【2016年1月完成】

品目：高糖度トマト(3.2ha)、高糖度ミニトマト(0.8ha)
目標単収：7.0t/10a(高糖度トマト)
3.0t/10a(高糖度ミニトマト)
地域エネルギー：木質バイオマス

6. 愛知県(豊橋市)【2017年3月完成】

品目：ミニトマト(3.6ha)
目標単収：21t/10a
地域エネルギー：下水処理場放流水熱

9. 大分県(九重町)【2016年3月完成】

品目：パプリカ(2.4ha)
目標単収：16.3t/10a
地域エネルギー：温泉熱

2. 宮城県(石巻市)【2016年8月完成】

品目：トマト(1.1ha)、パプリカ(1.3ha)
目標単収：34t/10a(トマト)、
20t/10a(パプリカ)
地域エネルギー：木質バイオマス、地中熱

8. 高知県(四万十町)【2016年3月完成】

品目：トマト(4.3ha)
目標単収：38.4t/10a
地域エネルギー：木質バイオマス

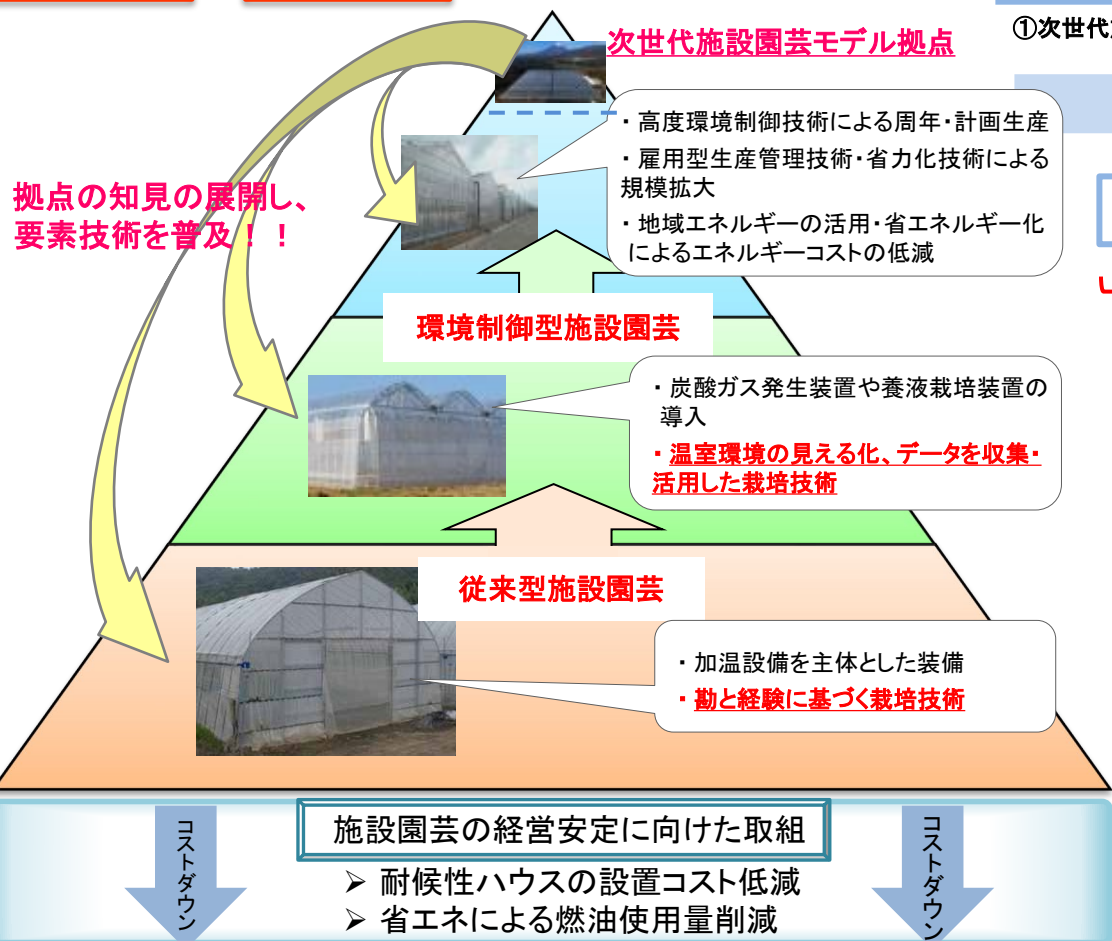
【参考】次世代施設園芸の取組

(3) 次世代施設園芸の取組拡大に向けた支援(進行方向)

- 基本的な方向としては、従来の勘と経験に基づく施設園芸から、環境制御型の施設園芸への転換を進めつつ、規模拡大を推進。
- 次世代施設園芸拠点の運営の中で得られた知見・ノウハウを分析し情報発信することで、拠点以外にも再現可能な形で広く普及するとともに、課題解決のカギとなる高度環境制御技術等の要素技術について、地域の実情に応じた技術習得を進めるための実証・研修を進め、次世代施設園芸の取組拡大を推進。さらに、大宗を占める既存ハウスにおける取組も推進する必要。

○次世代施設園芸の推進方向(イメージ)

安定供給 と **所得向上** を実現する施設園芸の実装！！



○次世代施設園芸事業の全体工程表

H25補 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4

①次世代施設園芸拠点(モデル拠点)の整備

10拠点の整備

静岡県・富山県・兵庫県・高知県・大分県・宮崎県
拠点完成

北海道・宮城県・埼玉県・愛知県
拠点完成

3つの課題を解決できる持続可能な施設園芸の実践

②次世代施設園芸拠点等のノウハウの分析・検証及び情報発信

拠点の立ち上げ支援、ノウハウの分析

拠点等のノウハウの発信、人材育成新技術の発掘

モデル拠点等の知見を再現可能な形で普及

③次世代施設園芸のポイントとなる技術の習得

高度環境制御技術
雇用型生産管理技術等
(次世代施設園芸技術習得支援事業)

モニタリング装置等の活用やハウスのリニューアルにも拡大
(データ駆動型農業の実践体制づくり支援事業)

高度環境制御装置等の普及

他の施策との連携

(強い農業づくり交付金、産地パワーアップ事業、制度資金等)

高度環境制御装置等の導入

【参考】次世代施設園芸の取組

(3) 次世代施設園芸の取組拡大に向けた支援(予算措置)

○ 令和2年度より、次世代施設園芸拡大支援事業を見直し、我が国の施設園芸の**大宗を占めるパイプハウスなどの従来型の既存ハウスも活用しながら、データを活用した施設園芸(スマートグリーンハウス)への転換を促進するため、生産性・収益向上につながる体制づくり、ノウハウの分析・情報発信等**の取組を支援。令和4年度より、新規就農者によるデータを活用した農業の実践に向けたメニューを拡充。

**持続的生産強化対策事業のうち
次世代施設園芸拡大支援事業**
【令和元年度まで】

データ駆動型農業の実践・展開支援
【令和4年度予算額173(173)百万円】

①生産性向上と規模拡大の加速化のための技術習得の仕組みづくり
(次世代施設園芸技術習得支援事業)

○ コンソーシアムによる**技術の実証、研修**等を実施。

コンソーシアムの構成員

都道府県、市町村 (行政、試験研究機関、普及組織)	生産者	実需者	生産者団体
	施設園芸機器メーカー	農地中間管理機構	

技術の実証・研修

高度環境制御技術 環境データの見える化・分析、 温室内の環境制御	雇用型生産管理技術 生産・作業計画の立案と要 員配置、従業員育成	省力化技術 作業の自動化等により、少 人数で大規模な面積を管理
---	---	--

○技術実証 ○実証温室での研修受入による技術習得

生産性の向上 + 経営規模の拡大

農地中間管理機構との連携
機構を介して、農地と施設を一
体的に集積する場合に重点支援

温室の低コスト化
低コスト化技術を活
用した実証温室の
整備も併せて支援
※強い農業づくり交付金と連携

コンソーシアムが実証の成果を各地域に普及

②次世代施設園芸拠点の**成果に関する情報発信**等を支援

次世代施設園芸の面的拡大に向けた支援の充実

①データ駆動型農業の体制づくり支援

- 環境モニタリング装置等から得られる産地内の複数農業者のデータを収集・分析し、生産性・収益向上に結びつける体制づくり
 - 農業者・企業・普及組織等による体制構築
 - データ収集・分析機器の活用
 - 農業者の技術習得
 - 既存ハウスのリノベーション 等
- 環境制御等の技術習得

環境モニタリング装置 環境制御装置 ハウスのリノベーション(かさ上げ)

コンソーシアムの構成員

生産者、実需者、生産者団体、施設園芸機器メーカー、都道府県

②スマートグリーンハウス展開推進

○データ駆動型施設園芸に向けたノウハウや施設設置コスト低減方策の分析・整理等を支援

ノウハウを分析・整理 研修会の開催

【参考】スマート農業実証プロジェクト①

- スマート農業の社会実装を加速するため、先端技術を実際の生産現場に導入して2年間にわたって技術実証を行うとともに、技術の導入による経営への効果を明らかにする。
- 花き分野においては、令和元年度に秋田県で1件、2年度には福島県で1件、愛知県で1件、3年度は栃木県で1件、富山県で1件が採択。

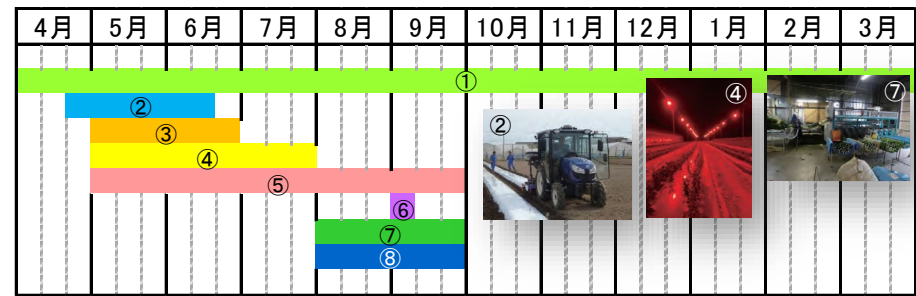
R元

園芸メガ共同利用組合
(秋田県男鹿市)

品目:小ギク 実証面積:6.6ha

先端技術の導入による計画的安定出荷に対応した路地小ギク大規模生産体系の実証

〈実証する技術体系の概要〉



- ①計画生産・出荷管理システム / (株) インテック
- ②自動直進機能付きうね内施用機 / (株) 中セキ東北
- ③キク用半自動乗用移植機 / (株) 中セキ東北
- ④耐候性赤色LED電球 / (株) エルム
- ⑤電照管理モニタシステム
- ⑥小ギク一斉収穫期
- ⑦切り花調整ロボット / (有) 今村機械
- ⑧鮮度保持剤

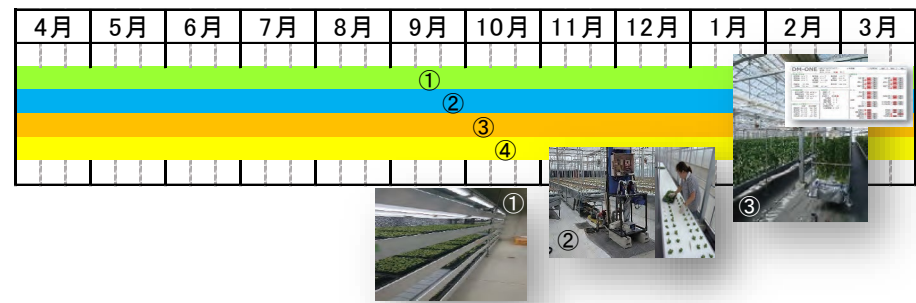
R2

(株)いわき花匠
(福島県いわき市)

品目:トルコギキョウ 実証面積:40a

スマートフラワーチェーンを担うIoTを活用したトルコギキョウの効率計画生産体系の実証

〈実証する技術体系の概要〉



- ①閉鎖型育苗 / 揖斐川工業(株)
- ②薄膜水耕 / 三菱ケミカルアグリドリーム(株)
- ③統合環境制御・計画出荷システム / (株) ダブルエム
- ④耐候性赤色LED電球 / (株) エルム

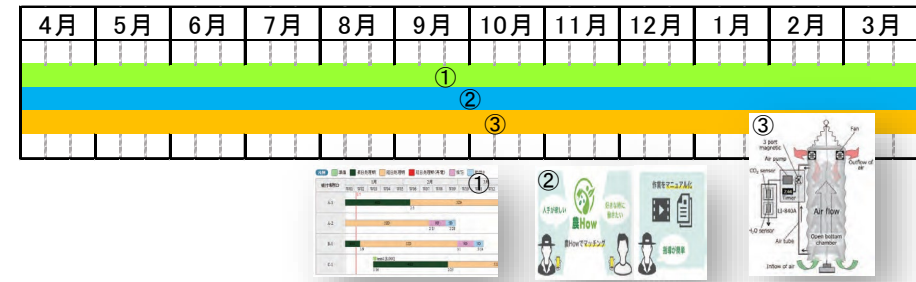
R2

JAひまわりスマート農業研究会
(愛知県豊川市)

実証面積:38a 品目:スプレーギク

スプレーギクの国際競争力を高める産地革新

〈実証する技術体系の概要〉



- ①作付計画システム / (株) コム・エンジニアリング
- ②労務管理システム / (株) アグリリオ
- ③環境制御システム
 - (1)光合成チャンバー / 国立大学法人豊橋技術科学大学
 - (2)環境制御システム / イノチオアグリ(株)

R3

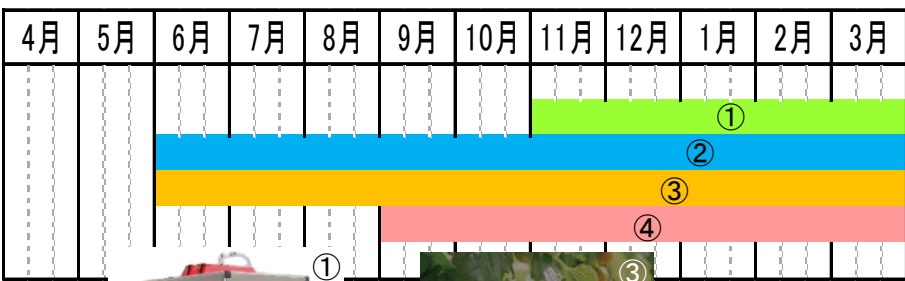
(有)エフ・エフ・ヒライデ

(栃木県宇都宮市)

品目: ユリ 実証面積: 1.45a

ポストコロナに対応した切り花のスマート農業技術生産および商流による「スマートリリー」ビジネスモデルの実証

〈実証する技術体系の概要〉



- ① AIによる農薬剤散布
- ② 環境データロガーによるデータシェアリング
- ③ 営農・労務管理のデータ化
- ④ 産直ECシステムによる商品のトレース・分析

R3

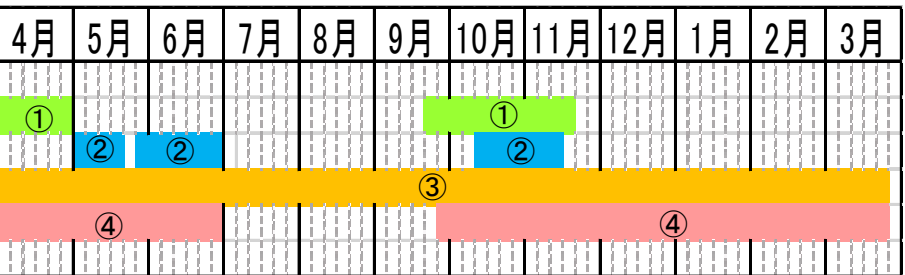
(農)富山東部球根プラント組合ほか

(富山県砺波市ほか)

品目: 花き球根 実証面積: 2.0ha

生産規模の異なる花き球根生産者を広域連携する球根版スマート農業サービスの確立

〈実証する技術体系の概要〉



- ① 球根植付ロボット
- ② 球根収穫ロボット
- ③ 営農支援ツール
- ④ 気象・土壌モニタリングシステム

【参考】都道府県別花き産出額(令和3年)

単位:億円

都道府県	産出額	主に生産されている花き
北海道	131	スターチス②、ゆり(切り花)、カーネーション(切り花)③
青森	17	きく(切り花)、トルコギキョウ、アルストロメリア
岩手	41	りんどう①、きく(切り花)、ゆり(切り花)
宮城	26	きく(切り花)、トルコギキョウ、カーネーション(切り花)
秋田	22	きく(切り花)、りんどう②、トルコギキョウ
山形	60	ばら、切り枝、トルコギキョウ
福島	79	切り枝②、きく(切り花)、カスミソウ②
茨城	166	切り枝①、芝①、きく(切り花)
栃木	70	洋ラン類(鉢)、きく(切り花)、ばら
群馬	53	ばら、洋ラン類(鉢)、きく(切り花)
埼玉	172	洋ラン類(鉢)③、ゆり(切り花)③、花木類③
千葉	228	洋ラン類(鉢)、切り枝、ゆり(切り花)
東京	49	切り葉①、観葉植物、庭園樹苗木
神奈川	46	洋ラン類(鉢)、ばら、シクラメン
新潟	70	ゆり(切り花)①、花木類②、チューリップ(切り花)①
富山	12	チューリップ(球根)、チューリップ(切り花)③、きく(切り花)
石川	5	洋ラン類(鉢)
福井	4	きく(切り花)、芝
山梨	39	洋ラン類(鉢)、ばら、花木類
長野	155	カーネーション(切り花)①、トルコギキョウ①、洋ラン類(鉢)
岐阜	66	観葉植物、花木類、サボテン類②
静岡	170	きく(切り花)、観葉植物②、ガーベラ①
愛知	569	きく(切り花)①、観葉植物①、洋ラン類(鉢)①
三重	63	庭園樹苗木②、観葉植物③、街路樹苗木②

都道府県	産出額	主に生産されている花き
滋賀	13	ばら、洋ラン類(鉢)、きく(切り花)
京都	11	洋ラン類(鉢)、切り枝、きく(切り花)
大阪	13	庭園樹苗木、洋ラン類(鉢)、きく(切り花)
兵庫	36	カーネーション(切り花)、庭園樹苗木、きく(切り花)
奈良	38	きく(切り花)、切り枝、庭園樹苗木
和歌山	64	スターチス①、カスミソウ③、切り枝
鳥取	31	芝、ストック③、パンジー
島根	19	シクラメン、花木類、トルコギキョウ
岡山	25	洋ラン類(鉢)、ばら、切り枝
広島	26	きく(切り花)、洋ラン類(鉢)、パンジー
山口	31	きく(切り花)、ばら、ゆり(切り花)
徳島	32	切り枝、洋ラン(切り花)①、洋ラン類(鉢)
香川	29	洋ラン類(鉢)、きく(切り花)、カーネーション(切り花)
愛媛	33	切り枝③、ばら、きく(切り花)
高知	60	ゆり(切り花)②、切り枝、トルコギキョウ
福岡	207	庭園樹苗木①、きく(切り花)③、洋ラン類(鉢)②
佐賀	35	ばら、シクラメン、きく(切り花)
長崎	73	きく(切り花)、洋ラン類(鉢)、カーネーション(切り花)
熊本	103	洋ラン類(鉢)、カスミソウ①、トルコギキョウ②
大分	45	きく(切り花)、洋ラン類(鉢)、スイートピー②
宮崎	71	洋ラン類(鉢)、ゆり(切り花)、きく(切り花)
鹿児島	127	きく(切り花)、ゆり(切り花)、洋ラン類(鉢)
沖縄	78	きく(切り花)②、切り葉③、観葉植物
合計	3,519	

資料:農林水産省「生産農業所得統計」「花木等生産状況調査」
 ※「主に生産されている花き」欄の囲い数字は、全国における順位。上位3位までを表示。